

interested to know that one of the leading Magazines here has just published the complete text, both in translation and in the original.

I am extremely pleased to hear that you are to serve on the newly-created Anglo-Japanese Committee which, I confidently hope, will undertake to remove misunderstandings to which current criticisms regarding Manchoukuo are mostly traceable, and to promote economic collaboration between your country and mine in the Far East.

As for the question of oil monopoly you speak of, we are doing our best to adjust the matter on a business line. Oil people understand our position and seem to be ready to enter into business talks with Japanese. I feel, therefore, extremely sorry that we received

* 事例編

昭和九年の海軍軍縮問題、および日英不開港協定締結問題をめぐる日英間関係文書について、既刊『日本外交文書 一九二〇年ロシノハ、海軍公議』を併せて参照。

official note from the British Embassy invoking some articles of the Nine Power Treaty, and thus reviving the fundamental discussion on the establishment of Manchoukuo. I hope the business talks will be successful in the end.

I thank you again, and hope that you will write me often. My wife joins me in sending you our warmest regards and best wishes.

Yours faithfully,

A.H.F. Edwards, Esq.,
208, Clive Court,
Maida Vale, London.

編注 本書簡の送り人欄には重光の署名が、付記に
ヨルガリハの關係か心善玉人は重光ひつた。

~~~~~

## 六 日ソ外交関係

216

昭和九年1月13日 広田外務大臣より 在ソ連邦大田大使宛(電報)

### 共産党中央委員会におけるコトワイヤノフ等の演説に關する連邦の注意喚起方訓令

付記 | 昭和八年十一月一十九日発在ソ連邦大田大使より広田外務大臣宛電報第六五五号

共産党中央委員会におけるコトワイヤノフ演説中対田關係部分について

II 昭和八年十一月三十一日発在ソ連邦大田大使より広田外務大臣宛電報第六六三号

共産党中央委員会におけるコトワイヤノフ演説中対田關係部分について

本省 1月13日後7時10分発

第六號(極祕)  
貴電第九號(關)

滿洲國側ニ於テハ「」聯人釋放ヲ大体一月下旬リ實行ス

害セストノ約言ヲ與ヘ乍ラ其ノ在滿日本代表ハ右權益ニ對シ直接的攻撃ヲナシ或ハ日本政府正式代表カ沿海州及全極東地方ヲ奪取セントスト誣ヒ日本ノ満洲占領ハ「ボーツマス」條約ノ違反ナリト公言シ怪文書事件ニ迄言及シタルカ

如キ一國ノ外交ヲ指導スル責任アル者ノ言トシテハ國際禮讓ノ上ヨリモ頗ル遺憾ノ點多ク「ソ」側要人ノ此種言動ハ徒ラニ我國民心ヲ刺戟スルノミニテ苟モ兩國ノ平和ヲ顧念スルモノ、慎ムヘキ所ト謂フヘク日本政府トシテハ成ル可ク此種不愉快ナル問題ヲ一掃シ然ル上ニテ虛心坦懷ニ日ソ間平和事業ノ促進ニ盡力シタキ希望ナリ

然ルニ前記貴電御來示ノ如ク今後更ニ「スター・リン」等ニ於テ反日演説等ヲ行フカ如キコトモアラハ兩國關係ハ更ニ尖銳化スルコトナキヤヲ憂フル次第ナルニ付テハ貴官ハ此ノ際至急「ソ」側當局ニ面談ノ上本問題ニ付篤ト先方ノ注意ヲ喚起セラレ「ソ」側ノ從來ノ言動ニ付反省ヲ促シ兩國關係改善ノ支障ヲ除去セシムルコトニ御配慮相成リ結果回電アリ度シ

### (付記一)

モスクワ 昭和8年12月29日後発  
本省 昭和8年12月30日前着

### 第六五五號

「モロトフ」ノ演説中對日關係要領左ノ通

對日關係ニ付テハ從來既ニ充分言盡セルカ如ク蘇聯ハ平和主義ヲ以テ進ミ不侵略條約ノ提議東支鐵道ノ賣却交渉開始極東ニ於ケル日本利權事業其ノ他ニ對スル總テノ事務的問題ニ對スル好意的態度等ニ依リ其ノ平和的態度ヲ實證シ居レリ然ルニモ拘ラズ日本ノ一部言論機關官邊有力者等ハ頻

リニ蘇聯側ニ侵略的意圖アルヤノ如キ凡ユル風説ノ捏造ニ從事シ或ハ「ゲーペーウー」カ満洲國境ヲ侵犯セリトカ或ハ莫斯科ノ手先カ支那ニ於テ反日活動ヲ組織セリ云々トテ連日虛報ヲ傳ヘ居レリ這ハ要スルニ自己ノ反蘇運動ヲ隱蔽セントスルモノニシテ自己ノ立場カ益々孤立トナリツツアルヲ感シタル軍閥カ特ニ極東戰爭ニ反對ナル蘇、米、支カ接近シ何等カ提携ヲ爲スナラント惧レ疑心暗鬼ニ陥リ或ハ自ラ之ヲ否定スル等徒ラニ苦心慘憺セル傍蘇聯ノ大々的國力伸長ニ恐レヲ爲シ頻リニ「今カ最モ便利ナル時ナリ」

ト叫ヒ居レリ

之ニ對スル蘇側ノ使命ハ依然極東平和政策ヲ基礎トシテ對日關係ノ改善ニ從事シ同時ニ現ニ起リ得ヘキ凡ユル紛爭問題ニ備フルニアリ今ヤ戰爭ノ危險ハ特ニ現實的ナルモノアリ本年獨日兩國ハ共ニ國際聯盟ヲ脱却シタリ而シテ獨逸ハ自己ノ國防ヲ擴張センカ爲ニ又日本ハ支那ニ於テ干渉ノ自由ヲ得ンカ爲之ヲ爲セルモノニテ結局聯盟ハ或ル程度迄干渉國ノ行動ノ自由ヲ容認セル形トナレリ

### (付記二)

モスクワ 昭和8年12月31日前發

本省 昭和8年12月31日前着

<sup>(1)</sup> 第六六三號  
往電第六六二號ニ關シ

對日關係ノ全文左ノ通リ

今ヤ吾人關心ノ焦點ハ我對日關係ニアリト斷言スルモ過言

ナラサルヘシ日本ノ政策ハ現時國際政局水平線上ニ於ケル最モ暗キ妖雲ト認ムヘク從テ蘇日關係ハ單ニ聯邦ノミナラス全世界注視ノ的トナリ居レリ顧ミルニ北京條約締結後一

昨年末迄蘇日間ニハ最上ノ善隣關係繼續シ何等ノ紛爭モ何等ノ大ナル誤解モ生セス又假ニ事アリトスルモ何レモ平和的外交手段ニ依リ解決セラレ兩國間ノ脅威カ問題トナリタルコトナカリキ吾人ハ當時日本側ヨリ不信行為ナカリシヲ以テ日本ヲ信賴シ極東邊境ヲ殆ト無防備ノ儘抛棄シ居リタリ然ルニ事態ハ日本カ満洲ニ軍事行動ヲ開始スルト共ニ變化シ來レリ吾人始メ全世界ハ右行動ニ於テ日本カ自ラ進テ引受ケタル國際條約上ノ幾多ノ義務ニ背反スルヲ看取セリ日本政府ハ右行動ニ曖昧且不徹底極マール說明ヲ與ヘ夫レト同時ニ日本軍ハ満洲内ニ於テモ一定ノ範圍外ニ出テサルヘク何レニセヨ我權益殊ニ東支ノ權益ハ決シテ侵害セラレナルヘシトノ公式ノ聲明ヲ爲シタリスル聲明ハ其後日本軍ノ進出ニ伴ヒ全滿ノ完全ナル占領及所謂滿洲國建設ニ至ル迄繰返シ爲サレタリ此行動ハ日本カ自ラ加入シ居リシ國際聯盟及諸外國ヨリ九國條約聯盟規約「ケロツグ」協定等ノ違反ト認メラレタルハ吾人ノ良ク知ル所ナリ

滿洲占領ハ又北京條約ニ依リ確認セラレタル「ボーツマス」條約ノ違反ナリ何トナレハ同條約ニ依レハ日本ハ満洲内ニ一定ノ最少<sup>少</sup>限度以上ノ兵力ヲ維持スルコトヲ得ス吾人ハ曩

ニ行ハレタル國際的行動ニ參與スルコトヲ避ケタルカ右ハ一方列國ノ誠意ト熱心トヲ疑ヒシ爲ナリト雖モ他方主トシテ日本トノ武裝的衝突ヲ避ケンカ爲ナリシモノニシテ此ノ點ハ今モ變ラス滿洲ニ於ケル我力權益ハ單ニ商業的ノモノノミナリ吾人ハ日本ニ對シ右商業的權益ノ尊重ヲ求メタリ然ルニ凡ユル堂々タル聲明及約言ニモ拘ラス在滿日本代表者ハ日ナラスシテ右權益ニ對シ直接的攻擊ヲ開始シ諸協定ニ定メラレタル支那人乃至滿洲人トノ東支共同管理ヲ全然不可能ナラシメント努力シ鐵道ノ業務ヲ阻害シ又右目的ノ爲煽動的強硬手段ニ訴へ且蘇側鐵道關係者ニ對シ何等ノ根據モ有セサル無法ノ要求ヲ提出スルニ至レリ全世界ハ我冷靜ト忍耐トニ奇異ノ眼ヲ向ケタリ左レト吾人ハ吾人ノ平和政策ヲ中止セサルコトヲ決心シ何等敵對行爲ニ出テ斯唯數度ノ抗議ヲ爲スニ止マレルモ何等ノ效果無カリキ然ルニ吾人カ冷靜且慎重ナル態度ヲ採レハ採ル程在滿日本官憲ハ益々不遜且煽動的態度ニ出テタリ斯ル日本側ノ態度ハ蘇側ヲシテ抗議ヨリ以上ノ更ニ強キ行動ニ出テシムヘク故意ニ挑發シ居ルモノナリトノ印象ヲ與フルニ至レリ吾人ハ右煽動ニ乘セラルルコトヲ好マサル爲本年五月ニ日本ニ對シ東別個ノ見解ヲ有スルモノナリ

## 不可能ナリト聲明セリ

商議ハ其後再開セラレス鐵道ニ於ケル暴行ハ繼續セラレ鐵道ノ機能ハ阻害セラレツツアリ加之右暴行ニ關スル我方聲明及抗議ニ對シ日本側ハ回答モ與ヘス徒ラニ之等暴行ハ日本ト何等關係ナク其ノ責任ハ一ニ「獨立自主」ノ滿洲國ノ負フヘキモノナリト稱シテ吾人ヲ説服セント努メ居レリサレト滿洲國ノ所謂獨立ナルモノニ關シテハ吾人否全世界ハ未タ一國家モ滿洲國ヲ承認セス各國トモ專ラ之ヲ日本政府及駐滿日本軍司令部ノ手先ト目シ居レリ其物的證據ヲ必要トセハ神聖ニシテ疑ナキ「タス」發表ノ署名アル文書有り之レニ依レハ蘇側鐵道從業員ニ對シ恰モ滿洲國司法權ノ名ニ於テ執行セラレタル暴力的行動力日本ノ軍及行政官廳ノ手先ニ依リ指導セラレタルモノナルコト明白ニシテ是等手先ハ右手段ニ依リ吾人ヨリ「足三文ニテ鐵道ヲ接收セント欲シタルナリ故ニ吾人ハ日本政府ニ對シ同政府カ滿洲國官憲ニ藉口スルコトヲ認ムルコト能ハサル旨竝ニ東支鐵道ニ於ケル我權益ノ侵害ニ對シテハ日本政府以外何者モ責任アルモノト認ムルコト能ハサル旨聲明セリ

支賣却ヲ提議セリ全鐵道、線路輪轉材料停車場及其ノ他ノ鐵道附屬物ハ我力聯邦人民ノ膏血ヲ以テ建設セラレタルモノナルカ故ニ之等ノ完全ナル所有物ナリ而シテ吾人ノ欲セシハ唯一ツナリキ即チ鐵道ノ現在ノ價格ヲ鐵道ノ眞ノ所有者ニ支拂ハレンコト之ナリ而シテ日本ハ恰モ前記我方提議ヲ受入レタルモノノ如クナリキ

<sup>(3)</sup> 然ルニ賣却條件ニ關シ愈具体的商議ニ入ルヤ日本ハ鐵道買入ノ意思無ク單ニ之力寄贈ヲ希望シ居レルモノナルコト判明セリ日本ハ蘇側ノ鐵道賣却ハ單ニ外觀ヲ裝フ爲ニ過キス事實ハ之ヲ無料ニテ讓渡スルノ用意有ルモノナリトノ初心ナル考ヘヨリ笑止千萬ナル些少ノ價格ヲ提議シタリ斯カル商議カ蘇側ノ最小限度ノ價格ニモ拘ラス何等具体的結果ヲ齎シ得サリシハ勿論ナリ茲ニ於テ日本代表者ハ言論ノ代リニ實力ヲ行使スルニ至リ蘇側鐵道關係者ヲ排除シ自己ノ任命セル滿洲人及白系露人ヲ以テ之ニ代ヘンカ爲強硬手段ニ訴ヘタリ換言スレハ彼等ハ鐵道略奪ノ特殊ノ手段ニ出テタリ吾人ハ斯カル狀況即チ討論及商業的談判ノ代リニ實力カ行使セラレ商議ニ對シ白系露人ヨリ成ル警官及刑事ノ輩カ特殊ノ援助ヲ爲スカ如キ狀況ノ下ニ商議ヲ繼續スルコトハアリ

ニハ一層冒險的氣分ヲ有スル團体有リ彼等ノ爲ニハ人生ノ最高目的ハ其結果ノ如何ニ拘ラズ戰爭ニアルモノノ如シ若シ日本ト衝突スルコトアリタル場合之ニ對スル諸外國ノ態度ニ關シテ云ヘハ吾人ハ日本カ道義上全世界ニ於テ完全ニ孤立スルモノナリト斷定スルヲ得ヘシ日本ノ支那ニ對スル行動及吾人ニ對シ將來アリ得ヘキ行動ハ全文明諸國ニ依リ非難セラレ居レリ

日本ハ二年以前軍事行動ヲ開始シタルカ同國ハ全資本主義諸國カ自己ニ味方シ其行動ヲ賞讃スル爲ニハ是等ノ行動力蘇聯ニ向ケラルモノナルコトヲ宣言スレハ充分ナリトノ目算ヨリ出發セリ獨逸國粹社會黨モ誤算シタルカ如ク日本モ此ノ點ニ誤算セリ日蘇ノ紛争ニ於テ資本主義諸國スラ吾人ノ公正ヲ認メ侵略的企畫ヲ專ラ日本ニ歸シツツアリ

<sup>(6)</sup> 資本主義諸國カスル舉ニ出テツツアルハ勿論吾人ニ好意有ル爲ニハ非スシテ若シ是等諸國カ今日日本ノ行動及政策ヲ正當ナルモノト認メ以テ日本ヲ強化スルニ至ランカ明日是等行動及政策ハ自己ノ利益ニ向ケラルヘキコトヲ自覺スルカ故ナリ尚茲ニ附言ヲ要スルハ熱狂的戰爭準備ノ爲日本ハ輸出増進ノ餘儀無キニ到リ全然無制限ニ「ダンピング」ヲ

行ヒ依テ以テ自己ノ親善國ト見做シ得ヘキ諸國ヲスラ自己ニ反抗セシムルニ至レリ

吾人ノ政策ハ明カナリ吾人ハ良好ナル情勢ヲ利用セントシ又ハ如何ナル條件ニ於テモ戰爭セントスルモノニ非ス又我國境ノ彼方ニ在ル日本ノ土地及他國ノ領土ヲ渴望セス吾人ハ今日迄平和ニ生存シタルカ如ク日本ト生存シ日本ノ權益ヲ尊重セント欲ス僅ニ要求スルハ日本モ我權益ニ對シ我ト同様ノ態度ヲ持スルコト之ナリ日本カ和平ヲ望ム第一ノ手段及證據ハ東支鐵道ニ於ケル暴力的警察行動ヲ禁止シ同地ニ於テ侵害シタル我權益ヲ復舊シタル後鐵道ノ商業的ニ公正ナル値段ニ付靜ニ交渉ヲ繼續スルコトニ在ラサルヘカラス日本ノ平和愛好ヲ證明スル第二ノ手段ハ吾人カ二年以前既ニ提議セル不侵略條約ノ調印ニ在ラサル可カラス吾人ハ日本カ軍事冒險者流ニ倣ハスシテ眞面目ナル愛國者ノ賢明ナル忠言ニ依テ行動スルコトヲ期待セント欲ス在歐米各大使ヘ郵送セリ

217 昭和9年1月16日 在ソ連邦大田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### 逮捕中の北滿鉄道ソ連側職員釈放問題などに つき我が方外務大臣と在本邦ソ連邦大使間の 会談実施につき意見具申

モスクワ 1月16日前発

本 省 1月16日後着

#### 第一七號(極秘)

#### 貴電第六號ニ關シ

蘇側要人最近ノ對日言動ハ世界ニ向テ我ヲ漫罵挑發スル如キ廉アリ帝國ノ威信ニ影響スル所鮮少ナラサル次第ニシテ本使ニ於テモ痛憤ヲ禁シ得サル所ナルモ其ノ依テ來ル所主トシテ北滿工作ニ在ルヲ思ヘハ右ニ對スル責任ハ遺憾ナカラ蘇側ヨリモ寧ロ我方ニ有リ而シテ蘇側ノ對抗方式カ我方ヨリ見テ國際禮讓上非難スヘキ點アリト解セラルルトスルモ斯ノ如キハ各自「テースト」ノ問題ト化スヘキ傾アルハ御承知ノ通ナル上ニ先方ハ既ニ所謂怪文書暴露ニ於テ一端ヲ示シタル如ク相當確實ナル證據(例ヘハ此ノ外客年在満大使發閣下宛電報第一一一四號及第一一二五號ノ如キ)ヲ握リ居ルモノト思ハレ又客年哈爾賓發閣下宛電報第八五四號特務機關長ノ對蘇聯總領事應答ノ如キ語ルニ落チタル嫌

<sup>(3)</sup> 見解ノ相違ハ別トシ蘇聯人釋放ヲ實行スル等事實ニ依リ之ヲ證セラルコトヲ要望セサルヲ得サル旨述ヘタルニ依リ酒匂ハ東支蘇聯人ノ釋放ヲ實行スル等事實ニ依リ之ヲ證セラルコトヲ要望セサルヲ得サル旨述ヘタルニ依リ酒匂ハ

シメラレサルヤ我外相ハスカル懇願ヲ無下ニ退クルコト無キヲ信ストノ趣旨ヲ以テ答ヘタル趣ナリ駐日大使八日ノ申出ハ或ハ右ニ何等關聯有ルニ非スヤト考ヘ附記ス)或ハ例ヘハ曩ニ顔慶惠カ東支賣却ニ抗議シ却テ「リトヴィノフ」ノ痛烈ナル反駁公表ヲ誘致シタル實例ノ如ク一層過激ナル反駁ヲ以テ酬ヒラル危険アルヲ虞ル又「リ」ノ演說中我軍事行動ニ關スル點ハ聯盟側ノ議論ヲ借用セルモノト認メラレ我ハ既ニ世界ニ向ツテ此ノ點ヲ反駁シ我主張ヲ明カニシ居ル次第ナルカ故ニ「リ」ノ言ノ爲何等國際的ニ痛痒ヲ感スルモノニ非ス又東支權益保護ノ約言云々ハ嘗テ本使ニ於テ反駁セシコトアルモ(客年往電第三一一號)先方ハ其ノ後ノ北鐵工作ヲ日本ノ責任ナリトシ之ヲ責ムルモノナルカ故ニ之ト争ハントセハ先以テ其ノ前提ヲ問ハサルヘカラサルヲ以テ議論ハ勢ヒ所謂怪文書ノ眞偽ニ及ヒ我ハ甚タ「オーケワード」ナル立場トナルヘシ唯沿海州及極東地方奪取云々ノ件ニ日本政府ノ代表ヲ「インヴォルヴ」セシメタル點ニ付テハ

「リ」カ如何ナル證據ヲ有スルヤ不明ナルモ從來我國ノ一部ニ於テ此ノ種ノ議論存スルハ事實ニシテ日本ノ新聞雑誌

ヲ詳細綿密ニ研究調査シ居ル當國政府ノコトニモアリ何等力ナル根據ヲ有スルヤモ計ラレス旁輕卒ニ論議セハ却テ蔽蛇ノ苦境ニ陷ル虞アルカ如シ抑々蘇側近時ノ抗日言動力主トシテ北鐵工作ニ因由スルモノアルコトハ前記ノ通リナル處斯ル所以ハ蘇聯ノ極東軍備充實セラレ其ノ歐米諸國ニ對スル平和協調政策モ着々進展ヲ見ルニ至リ國內事情亦必スシモ我ニ比シ不利不安ナラナルモノアリト自信スルニ至レルト共ニ我國ニ於ケル對蘇主戰論者ノ勢力尙相當ニ强大ナリト推斷シ居ルモノト解セラレ畢竟我ヲ恐レス却テ之ヲ侮蔑スルニ至レル結果ト認メサルヲ得サルニモ鑑ミ彼ヲ反省セシメントセハ宜シク儼然タル方法ヲ以テ之ニ對抗シ

場合ニ依リテハ一戰亦辭セサル態度ニ出ツル必要アルヘク若シ我ニ於テ斯ル覺悟モ無ク又開戦ヲ不利トスルニ於テハ早キニ臨ミ我ニ於テ平和工作ヲ如實ニ示シ我眞意ヲ彼ニ知ラシムルノ策ヲ執ルノ外無カルヘシ是本使ニ於テ從來屢卑見ヲ上申シ又事前ニ注意スヘキ點ニ付テモ上申セシ次第ナル處事態ハ本使カ豫テ憂ヘタルカ如キ推移ヲ執リ甚タ遺憾ニ堪エサル所ナルカ此ノ際本使ニ於テ蘇側當局ト懇談ヲ試

ムルトモ將來ニ於ケル蘇側ノ言動ヲ緩和セシムル效果以外ニ過去ニ於ケル言動ニ付反省シ遺憾ノ意ヲ表セシムルカ如キハ到底覺束ナキノミナラス或ハ却テ又復苦盃ヲ嘗メシメラルルノ危険アルヤニ認メラレ

旁此ノ事實ハ之ヲ默殺スルコトトシ蘇聯人ノ釋放ヲ機トシ東京交渉ノ促進ヲ期スルコト最モ實際的ナル方法トシテ殘存スルノミト思ハルモ内政等ノ關係上右ニテハ不満足トセラルニ於テハ貴大臣ト「ユ」大使トハ從來ノ關係モアリ且同大使ハ我當局ノ意嚮ニ付相當ノ知識ヲ有スルモノト認メラル上ニ同大使ヲ通スル場合ニハ本使カ當地當局ニ話込ム場合ト異ナリ蘇側トシテモ同大使ノ立場ヲ斟酌スヘキ關係上假令我希望ニ不同意ノ場合ニ於テモ其ノ表意ノ形式餘程緩和セラルヘキ望アルニモ鑑ミ此ノ際貴大臣ニ於テ「ユ」大使ヲ招致セラレ貴電第一九號末段ノ如キ餘りニ

「ノン、コミツタル」ニ過キタル態度ヲ清算シ責任アル言トシテ帝國ハ一意蘇聯トノ平和親善ヲ念トスルモノニシテ滿洲國ニ於テ拘禁中ノ蘇聯人釋放モ帝國ノ勸告ニ依リ近ク其ノ實行ヲ見ルヘキ運トナレル旨告ケラレ蘇側ノ怪文書事件乃至要人ノ抗日言動カ平和工作ニ一大障礙ヲ與ヘ居ルク

ヲ率直ニ說キ蘇側カ果シテ我トノ親善ヲ望ムモノナラハ宜敷ク此ノ際過去ニ於ケル行動ハ帝國ノ眞意ヲ解セサリシニ依ルモノナリトノ趣旨ヲ(脱?)

蘇側案ヲ責任アル言明トシテ何等カノ形式ニ依リ發表センコトヲ要望スル旨說キ聞カサルコト最モ適切ナラスヤト思考ス尤モ當方ニ於テ最モ危險少キ方法ニ依リ先方ノ意向探知方機ヲ見テ取計フコトニ付且下考慮中ナルモ貴電末段ノ如ク此ノ際本使ニ於テ措置スルコトハ前記ノ如ク甚タ危険ナルヲ思ハシムルヲ以テ敢テ卑見電報ス

218 昭和9年1月20日 在ソ連邦大田大使より

広田外務大臣宛(電報)

日ソ關係改善に對してソ連側は我が方からの具体的な動きを期待しているとの觀測について

モスクワ 1月20日後発

本省 1月21日前着

第三五號  
往電第一七號末段ニ關シ

(勾)酒匂シテ極東部長代理ト懇談ヲ試マシムルヲ適當ナル

策ト認メタルヲ以テ十七日酒匂<sup>(勾)</sup>カ他用ヲ以テ同代理ヲ往訪ノ際同官ヲシテ日蘇關係ニ言及セシメ所謂怪文書事件「モロトフ」及「リトヴィノフ」ノ抗日的演説ノ如キ蘇側從來ノ言動カ日本朝野ノ對蘇感情ヲ著シク惡化セルハ事實ニシテ此ノ上「スターイソ」ニ於テモ亦反日的演説ヲ爲スカ如キコトモアラハ兩國關係ハ一層尖銳化スヘク平和工作ヲ益々困難ナラシムル惧アリト思ハルル處蘇側ニ於テ對日親善增進ヲ念トセラルルナラハ帝國議會ノ開會セラレ居ル此ノ際ニ於テ過去ノ諸言動ハ日本ノ眞意ヲ了解シ居ラサリシ爲ニシテ今後ハ友好關係ノ改善ニ專念スヘシトノ趣旨ヲ何等力ノ形式ニ依リ表明セラルルコト適切ナリト思ヒ居ル次第ナリトテ種々懇談ヲ重ねシメ更ニ十九日同代理ヲ往訪セシメタルニ同代理ハ一昨日御來談ノ次第ハ自分ニ於テモ大イニ興味ヲ感シタルヲ以テ大体ノ趣旨ヲ「ソコリニコフ」ニ告ケ置キタル處「ソ」ハ今朝自分ヲ呼ヒ色々話ヲ爲セルカ之ヲ綜合セハ要スルニ日本側ヨリ先以テ何等カノ「ムーブ」例ヘハ對蘇平和親善策ヲ執ルニ決定シス々ノ工作ヲ實施スルコトナレリト言フカ如キアルヲ期待シ居レルカ如シ東支蘇聯人ノ釋放近キニアリトカ東支交渉再開ノ上ハ好

意的斡旋ヲ爲スナルヘシトカ言ハルルモ現ニ最近東京ヨリノ電報ニ依レハ大橋氏ハ日露通信ニ對シ滿洲國トシテハ北鐵買收價格ヲ斷シテ五千萬圓以上ト爲スノ意図無ク日本ノ新聞等カ傳フル七千萬又ハ一億圓說ノ如キハ滿洲國ノ關知セサル所ニシテ「ユレネフ」大使ト廣田外相トノ會談ノ如キモ滿洲國ノ態度ニ何等關係ヲ與フルモノニ非ス又蘇聯人釋放說ノ如キ全然根據無キモノニシテ事司法上ノ措置ニ關スル以上何日ニ至リ彼等ノ釋放ヲ見ルヤ素ヨリ豫見シ難シ云々ト述ヘラレタル由ニテモアリ右「ソコリニコフ」ノ言ハ尤モナリト感セサルヲ得ストノ趣旨ヲ語リタル趣ナリ以上ニテモ窺知セラルルカ如ク本使カ「リトヴィノフ」又ハ「ソコリニコフ」ト直接談合ヲ爲ストモ徒ニ不愉快ナル議論ヲ闘ハスコトナルカ或ハ之ヲ避ケントセハ我苦衷ヲ訴フルカ如ク解セラルル惧モアリ而モ我方ノ求ムルカ如キ結果ヲ得ルコト困難ナルヤニ認メラレ此ノ際トシテハ往電第一七號ニ披瀝セル意見ノ如キ方法ニ依リ措置セラルルノ外無キヤニ思料ス

219 昭和9年1月22日 在ソ連邦大田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

共産党モスクワ州および市合同會議における対日  
關係を重視したカガノヴィッチ演説について

モスクワ 1月22日後発

本 省 1月23日前着

第四〇號

<sup>(1)</sup> 一月十七日開催セラレタル共産黨莫斯科州及市合同會議ニ於テ「カガノヴィッチ」ハ第十六回黨大會ヨリ近日開カル可キ第十七回黨大會迄ノ間ニ於ケル黨中央委員會ノ事業ニ關スル報告演説ヲ爲シタルカ蘇聯ノ對外政策中對日關係ニ關シテハ左ノ如ク論セリ(「十二日發表」)

モ無償ニテハ諸君ノ手ニ渡ラサル可ク結局重大事件ヲ惹起ス可シ」ト注意シ置キタルカ吾人ハ日本ト戰ヲ交ヘントハセス平和ノ確保ヲ希望スルモノナリ蘇聯政府ハ東支ヲ相當價格ニテ賣却スル用意有ル事ヲ聲明シタル結果交渉開始セラレタルモ日本カ愚弄的價格ヲ申出テタルヲ以テ吾人ハ斷然拒絕セリ

<sup>(2)</sup> 然ルニ日本軍部ハ更ニ手ヲ代ヘテ蘇聯籍東支從業員ヲ檢擧スルニ至レリ之ニ對シ素ヨリ吾人ハ拱手セルニアラス「タツス」ハ日本外交官及軍人ノ秘密文書ヲ發表シ以テ東支奪取政策カ東京ノ指金ナル事ヲ全世界並日本勤勞者ニ示シタリ日本ニハ相容レサル二派アリ即チ一ハ荒木氏ヲ首班トル軍部ニシテ他ハ日本カ蘇聯ノ如キ強敵ト爭フ事ノ容易ナラサルヲ自覺スル「ブルジヨア」一派ナリ今日極東ノ事態ハ緊張シ居リ何時吾人ヲ攻擊スルモノアルヤ知レサル事ヲ覺悟セサルヘカラス總テ帝國主義者ハ偽善且ツ狡猾ナルモノナルカ日本帝國主義者ニ於テ特ニ然ルノ感アリ一九〇四年ヲ想起セヨ日本ハ帝制露國ノ外交官ト交渉ヲ行ヒツツ他方旅順碇泊中ノ露國軍隊ヲ突然攻撃セリ日本ノ將軍ノ或者等ハ之ヲ繰返サント欲スト喋リ居レルカ彼等ハ一九〇四年等ハ之ヲ繰返サント欲スト喋リ居レルカ彼等ハ一九〇四年

當時ノ帝制露國政府ト異ナル蘇聯政府及「ボリシエヴィキ」等ト今日事ヲ構フルモノナル事ヲ失念シ居ルナリ万一日本軍ニシテ敢テ蘇聯領土ニ踏入ランカ彼等ハ蘇聯及赤軍ノ勢ニン」及「スターリン」主義ヲ奉スルモノノ外交ニ於テ然

リ吾人ハ多數ノ條約ヲ締結スルトモ油斷スル事ナク蘇聯ノ國防ヲ充實セサルヘカラス云々

ニン」及「スターリン」主義ヲ奉スルモノノ外交ニ於テ然

リ吾人ハ多數ノ條約ヲ締結スルトモ油斷スル事ナク蘇聯ノ國防ヲ充實セサルヘカラス云々

形式ニ變更スルハ右條約ノ規定ニ照シ支障無之候ヤ何分ノ御意見至急御回示相煩度此段及照會候也

220 昭和9年2月5日 東郷歐米局長より

福田(庸雄)商工省鉛山局長宛

北樺太石油株式会社の半官半民への変更に關する意見

しては政府資本が五割を超えない限り問題なしとの外務省側見解について

歐一機密第一五八號

昭和九年二月八日

外務省歐米局長 東郷 茂徳殿

商工省鉛山局長 福田 庸雄(印)

北樺太石油利權條約ノ解釋ニ關スル件

本件ニ關シ二月五日附九鑛局第五六號貴信ヲ以テ御照會ノ次第承當省意見左記ノ通ニ付右ニ御承知相成度

記  
商工省鉛山局長 福田 庸雄(印)

北樺太石油利權條約ノ解釋ニ關スル件

本件ニ關シ二月五日附九鑛局第五六號貴信ヲ以テ御照會ノ次第承當省意見左記ノ通ニ付右ニ御承知相成度

記  
大正十四年ノ日「ソ」北京條約交渉當時「ソ」聯邦側ニ於

テハ國內法上外國政府ヲ利權契約ノ當事者トシテ認メサル方針ナリトテ日本政府ガ北樺太石油利權當事者タルコトヲ

現ニ經營シツ、アル北樺太石油株式會社ヲ半官半民ノ出資

現ニ經營シツ、アル北樺太石油株式會社ヲ半官半民ノ出資

拒絶シタル經緯等ニ鑑ミ政府ハ北京條約附屬議定書(乙)ニ

所謂「日本國當業者」トナルヲ得サルモノト解セラル

然レトモ右「日本國當業者」タル北樺太石油會社カ商法ノ規定ノミニ基ク純民營ノモノト異リ大正十四年法律第三十

七號及大正十五年勅令第九號ニ設立ノ根據ヲ有シ右ノ特別

法ニ依リ政府ノ監督ヲ受クル特殊會社ナルコトハ從前ヨリ

「ソ」側ニモ判明シ居ル所ナルヘキヲ以テ今後會社ノ資本

關係ニ政府カ介入スル場合ニモ純然タル官業ニ轉換セサル

以上「ソ」側ヨリ別段苦情ナカルヘシト思考ス尤モ冒頭所載ノ成行ニ徵シ「ソ」側ハ政府資本ノ之ニ加ハルコトハ官

業ニ近接スルモノトシテ悅ハサル所ナルヘク殊ニ政府資本

カ株式總額ノ五割ヲ超ユル如キ場合ニハ「ソ」側ハ之ヲ以

テ官業ノ變形ト見做スニ至リ條約違反問題ヲ惹起スル虞レ

アリ

ソ連側による漁区競売時のルーブル換算率改

訂要求および本年度漁区競売状況について

221 昭和9年2月8日 東郷歐米局長より

福田(庸雄)商工省鉛山局長宛

北樺太石油株式会社の半官半民への変更に關する意見

しては政府資本が五割を超えない限り問題なしとの外務省側見解について

歐一機密第一五八號

昭和九年二月八日

外務省歐米局長 東郷 茂徳殿

商工省鉛山局長 福田 庸雄(印)

北樺太石油利權條約ノ解釋ニ關スル件

本件ニ關シ二月五日附九鑛局第五六號貴信ヲ以テ御照會ノ次第承當省意見左記ノ通ニ付右ニ御承知相成度

記  
商工省鉛山局長 福田 庸雄(印)

北樺太石油利權條約ノ解釋ニ關スル件

本件ニ關シ二月五日附九鑛局第五六號貴信ヲ以テ御照會ノ次第承當省意見左記ノ通ニ付右ニ御承知相成度

記  
大正十四年ノ日「ソ」北京條約交渉當時「ソ」聯邦側ニ於

テハ國內法上外國政府ヲ利權契約ノ當事者トシテ認メサル方針ナリトテ日本政府ガ北樺太石油利權當事者タルコトヲ

現ニ經營シツ、アル北樺太石油株式會社ヲ半官半民ノ出資

現ニ經營シツ、アル北樺太石油株式會社ヲ半官半民ノ出資

拒絶シタル經緯等ニ鑑ミ政府ハ北京條約附屬議定書(乙)ニ

所謂「日本國當業者」トナルヲ得サルモノト解セラル

然レトモ右「日本國當業者」タル北樺太石油會社カ商法ノ規定ノミニ基ク純民營ノモノト異リ大正十四年法律第三十

七號及大正十五年勅令第九號ニ設立ノ根據ヲ有シ右ノ特別

法ニ依リ政府ノ監督ヲ受クル特殊會社ナルコトハ從前ヨリ

「ソ」側ニモ判明シ居ル所ナルヘキヲ以テ今後會社ノ資本

關係ニ政府カ介入スル場合ニモ純然タル官業ニ轉換セサル

以上「ソ」側ヨリ別段苦情ナカルヘシト思考ス尤モ冒頭所載ノ成行ニ徵シ「ソ」側ハ政府資本ノ之ニ加ハルコトハ官

業ニ近接スルモノトシテ悅ハサル所ナルヘク殊ニ政府資本

カ株式總額ノ五割ヲ超ユル如キ場合ニハ「ソ」側ハ之ヲ以

テ官業ノ變形ト見做スニ至リ條約違反問題ヲ惹起スル虞レ

アリ

ソ連側による漁区競売時のルーブル換算率改

訂要求および本年度漁区競売状況について

方官憲ハ中央ノ指令ナキヲ口實トシテ我方要望ニ應セサル爲我カ漁業者ハ止ム無ク保證金トシテ三十二錢五厘ノ割合ニ依リ日貨小切手ヲ用ヒ入札ヲ敢行シ右ト全時ニ在浦潮總領事ヨリ「ソ」側ニ對シ右入札ヲ有效ト認ムヘク然ラサレ

ハ全日ノ競賣全体ヲ無効ト看做スヘキ旨警告シタルカ右ニ拘ラス「ソ」側ハ開票ノ結果右入札全部ノ無効ヲ宣シ「ソ」側入札ノ分ニ付漁區落札ヲ發表シタリ仍テ我方ヨリ嚴重「ソ」側ニ抗議シ之カ匡正方且下交渉中ナルカ右ハ最近ニ於ケル「ソ」側不信行爲トシテ最モ顯著ナル事例ナルニ付可然御利用アリ度

英、加、紐育ニ轉電シ英ヲシテ在歐各大使(露ヲ除ク)及波蘭、「ラトヴィヤ」、羅馬尼、「フィンランド」ニ轉電セシメラレ度

第七九號  
往電第七六號ニ關シ

顏惠慶カ二十日外交月報社ノ招宴ニテ爲セル外交問題講演要旨左ノ通

一、東支鐵道賣却問題ハ露支復交後ノ不法事件ナルカ我國ヨリハ既ニ嚴重抗議提出シ有ル外實際交渉ニ於テモ兩國申出ノ價格ニ著シキ懸隔アリ果シテ右交渉力成立スルヤ否ヤハ尙豫言シ難シ

二、今後ノ露支關係ニ付テハ一ツニ我國ノ努力ニ俟ツヘク貿易上ニ於テハ我國商人ヲシテ速ニ大規模ノ貿易機關ヲ組織セシムル事肝要ニシテ差當リノ急務トシテハ新疆方面ニ於テ完全ニ露人ニ獨占セラル居ル我國ノ對露貿易ノ發展ヲ計ル事ナリ

三、日露關係ノ緊張セルハ言フ迄モ無キ處ナルカ唯露國ハ侵略的國家ニ非サルヲ以テ兩國カ果シテ開戰スルヤ否ヤハ豫斷シ難キモ吾人ノ觀察ニ依レハ露國ハ日本カ侵略セサル限リ決シテ開戰セサルヘク將來ノ發展ハ一ツニ露滿國

223 昭和9年2月22日 在中國中山(詳一)公使館一等書記官 広田外務大臣宛(電報)

北滿鉄道讓渡交渉問題等に関する顏惠慶の講演について

境方面ニ於ケル兩國軍隊ノ態度如何ニ依リ決定セラルヘシ

第二九號(至急)

本省 2月27日前1時発

貴電第二九號ニ關シ

四、米露復交ハ露國外交ノ一大成功ニシテ米國亦世界的經濟不況ノ際ノ廣大ナル新市場ヲ獲得シ得テ極メテ有利ナルカ外間臆測ノ如キ孰レモ事實ニ非ヌ要スルニ米露復交ノ原因ハ經濟互助並ニ和平維持ニ外ナラス  
五、國際聯盟ハ日支問題ノ影響ヲ受ケ其ノ地位著シク低下シ軍縮問題ノ久シク結果無キモ亦之カ爲ニシテ將來日支問題ニ關シ徹底的辨法無キ限り過去ノ地位ヲ回復シ得サルヘシ

支、滿、南京、天津へ轉電セリ

~~~~~

224 昭和9年2月27日 在ウラジオストク渡辺(理恵)總領事宛(電報)
広田外務大臣より
ストク渡辺總領事宛第三〇号

ソ連側が主張する漁区再競売に我が方が応じる際の条件について

別電 二月二十七日発広田外務大臣より在ウラジオ

セントスル意図ナリ

就テハ貴官ハ至急右趣旨ニ依リ「ソ」側ト交渉セラレ先方カ我方條件ヲ其儘承認シ問題ヲ綺麗「サツパリ」ト解決スル様極力御説得相成度尙若シ先方カ右我方ノ寛大ナル條件ヲモ承認セサルトキハ我方トシテハ再ヒ從來ノ主張ニ立歸リ第一回ノ入札ヲ其儘有效トシテ依然其ノ公表方ヲ迫ルノ外ナキ次第ナルニ付右ノ旨併セ御説示アリ度尙右不承認ノ場合ニハ二十八日ノ再競賣執行ニハ「ソ」側ノミ参加スルコト、ナリ事態ヲ益々紛糾セシムヘキニ付再競賣ノ無期延定期方併セ交渉アリ度シ

「モスコ一」ニ轉電セリ哈府へ轉電アリ度

(別電)

本省 2月27日前1時40分発

第三〇號(至急)

一、邦人ハ三三、五ノ割ニテ「アコ」債券又ハ之ニ代ヘ小切手ヲ封入ス尙換算率ニ付「ソ」側ハ何等ノ留保ヲ爲ササルコト

二、第一回競賣ニ於テ邦人ノ當然競落スヘカリシ漁區ハ再競

賣ニ於テ前回通リノ入札價格ヲ以テ其儘邦人ニ落札セシムルコト、シ右ニ該當スル漁區ハ競賣ニ先チ「ソ」側ヨリ貴官ニ内示セシムルコト
第一回競賣ニ於テ邦人入札シタルモ不落ナリシ漁區及其ノ最低價格ハ競賣ニ先チ「ソ」側ヨリ貴官ニ内示セシムルコト(右ハ今次競賣カ條約上ノ再競賣トシテモ欠點ナキモノタラシムル爲ニ必要ナリ普通ナラハ最低價格ヲ發表セシムヘキモノナルモ此種漁區ニハ今回ハ「ソ」側ノ入札ナカリシニ鑑ミ貴官ヲ通シ邦人ニ内示サルレハ足ル次第ナリ)
三、邦人競落ノ漁區ニ付テハ再競賣後直ニ借區契約ヲ締結シ前半期分借區料ハ三三、五ノ割ニテ納入スルコト
四、邦人當業者ニ於テ準備ノ都合アラハ再競賣期日ヲ多少延期スルコト

225 昭和9年3月9日 広田外務大臣より
在ソ連邦大使宛(電報)

ルーブル換算率改訂交渉は漁區競売是正後に

応じるとの我が方方針について

「ソ」側ト交渉アリ度シ

第八〇號

本省 3月9日後8時発

浦潮來電第四四號及貴電第一〇四號ニ關シ

一、五日ノ競賣ハ我方ノ正當ナル要求容レラレサル爲邦人參加セス爲ニ中絶ノ形トナリタルモ右ハ「ソ」側カ漁業條約及換算率協定ヲ無視シタル結果ニ外ナラス我方トシテハ既ニ「ソ」政府當局カ二十日ノ競賣ノ過誤ニ出ツルコトヲ認メ之カ是正ヲ約シタルニモ鑑ミ右競賣ニ於ケル邦人入札ヲ有效トル取扱ヲ依然要求スルモノナリ而モ又邦人當業者出漁準備ノ都合上本問題ノ急速解決ヲ必要トス(邦人入札者中昭和漁業ハ露領沿岸漁業ヲ行フ爲過般設立セラレ今年初メテ競賣ニ參加セルモノナリ)

二、他方三月一日「ソコルニコフ」ノ換算率改訂ニ關スル申出ニ付テハ右ハ換算率協定ニ基ク改訂申出ナラハ右協定ノ趣旨ニ顧ミ我方トシテ先方申出ヲ審議シ改訂問題ニ關シ意見ヲ述フルコトハ之ヲ拒絕スルモノニ非ス然レトモ右改訂申出ノ結果取極ノ效力ニ何等變更ヲ生シタリトノナルノミナラス換算率ノ改訂自体ニ付テモ我方ニ於テハ

「ソ」側ニ從來述ヘオルカ如キ見解トハ諸種ノ點ニ於テ異ナリタル意見ヲ有スルモノナルコトハ「ソ」側ニ於テモ豫メ承知シ置クノ要アリ尙又右改訂ニ關スル交渉ハ「ソ」側ニ於テ右協定ヲ蹂躪シタル今次競賣ノ不法措置ヲ完全ニ是正シタル後ニ開始セラルヘキコト當然ノ義ナルニ依リ貴官ハ前記ノ趣旨ニ依リ先ツ競賣自体ヲ是正セシムルニ極力努メラレタシ

三、競賣是正ノ具体的方法ハ「ソ」側ニ於テ考案スヘキ筋合ナルカ我方トシテハ差當リ左記二案ヲ考慮シ得ヘシ

第一案

イ、二十日競賣ニ於ケル邦人落札漁區ヲ速ニ公表スルコトロ、邦人不落漁區ニ付テハ二十日競賣ノ最低價格ヲ發表シ五日競賣ノ追加入札ノ際再入札ヲ爲スノ機會ヲ與フルコト(入札方法、借區契約、借區料等ハ第二案ニ同シ)

第二案

浦潮宛往電第三〇號案ヲ五日競賣ノ追加入札ニ適用スルコト

浦潮ニ轉電シ哈府ニ轉電セシム

近ニ反対シ蘇聯ハ日本ニ打勝チ滿洲ヲ支那ニ返スニ充分ナル準備アリトテ楊ノ説得ニ努メタル由ナリ
三、自分等ハ蘇聯ニ對シテハ特ニ警戒シ慎重ノ態度ヲ持シ居リ從來ノ懸案タル通商條約問題モ今尙討議ヲ爲シ居ラス
北平、南京、滿ヘ轉電セリ

中ソ不可侵条約締結問題に關しては北満鉄道
讓渡交渉の進捗状況を視野に入れつつ慎重に
対処中との中国外交部次長の内話について

上 海 3月12日後発
本 省 3月12日後着

第一五七號

十二日唐有壬來訪ノ際本使ニ内話スル處左ノ通

一、先般來蘇聯大使ヨリ露支不可侵條約ノ締結方盛ニ催促ヲ受ケ居ル處汪兆銘及自分ハ日蘇關係特ニ東支鐵道賣買問題ノ成否ヲ見送リ若シ右交渉成立セハ日蘇兩國間ノ險惡ナル空氣モ一掃セラルヘキニ付其ノ際ニ於テ實益モ實害モ無キ露支不可侵條約ヲ締結スルモ(日本側ニ於テ左迄問題トセサルヘク)今ハ強ヒテ冒險ヲ爲ス際ニアラストノ意嚮ヲ有シ居レリ

(欄外記入)
二、曩ニ軍事視察ノ爲渡歐シタル楊杰ハ目下蘇聯ニ入り大歡

迎ヲ受ケ居レルカ最近ノ報告ニ依レハ蘇聯ノ國防委員會副委員長ハ楊ニ對シ支那ノ煮切ラサル態度ヲ責メ極力日支接

(欄外記入)

露ハ不可侵条約ヲ以テ恰モ同盟條約ノ如ク現在ノ國際關係ニ於

テ合縱連衡ノ具ニ用ヒ居ル事ヲ指摘シ極力改善スル様訓令ス

~~~~~

227 昭和9年3月15日 広田外務大臣より  
在ソ連邦大臣宛(電報)

漁区競賣問題に対するソ連側対応の不当性につき  
在本邦ソ連邦大使へ抗議について

本 省 3月15日後6時発

## 第八三號

十二日本大臣ハ「ユレーネフ」大使ノ來訪ヲ求メ北鐵交渉ニ關スル會談後責電第一一九號ニ依リ競賣問題ニ關スル

「モスコ一」交渉今尙片付カサルコトヲ告ケ日本側トシテハ政府間協定ヲ一方的ニ變更スルコトヲ認ムル能ハス若シ又「ソコリニコフ」氏カ今回始メテ協定改訂ヲ通告セラレタルモノトセハ最初ノ競賣ヲ無効トセルハ明ニ不正ナリ貴大使モ最初ノ競賣ノ不正ヲ是正スト言ハレタルニ依リ其ノ通リ議會ニ報告セリ本大臣トシテハ「ソコリニコフ」ノ言ハル、理由ヲ諒解シ兼ヌル旨本國政府ニ報告セラレ度シ此際最良ノ解決方法トシテハ最初ノ競賣ヲ其儘有効トスルコトナルカラ右競賣ハ濟ミタルコトニモ鑑ミ今後ノ競賣ヲ正シク執行スルコト、スルモ可ナルヘクソレニハ「アヴァンス」ノ點ヲ問題トセサルコト必要ナリトノ趣旨ヲ說示セルニ大使ハ右ニ對スル贊否ハ別トシテ「アヴァンス」案ハ「ソ」側ノ妥協案ナルニ日本側カ之ニ應セサル爲問題紛糾セリ換算率協定ヲ國際協定ト言ハル、ハ少シク業々シキ言葉ナルカ「ヘーグ」ノ國際司法裁判ニ附スルモ「ソ」側ノ行爲ハ國際協定違反トハ認メラレサルヘク「ソ」側經濟機關カ自己ノ損失トナル換算率維持ニ反対スルハ無理カラヌコトナリト述ヘタリ

仍テ本大臣ヨリ國際約束ハ履行サヘスレハ妥協ノ必要無ク

近ニ反対シ蘇聯ハ日本ニ打勝チ滿洲ヲ支那ニ返スニ充分ナル準備アリトテ楊ノ説得ニ努メタル由ナリ  
三、自分等ハ蘇聯ニ對シテハ特ニ警戒シ慎重ノ態度ヲ持シ居リ從來ノ懸案タル通商條約問題モ今尙討議ヲ爲シ居ラス  
北平、南京、滿ヘ轉電セリ

理窟ハ一國ノ外務大臣トシテ聞ク耳ナント述フルヤ大使ハ

見について

モスクワ 3月19日前發

協定ノ性質及形式等ニ言及シ佛獨間並ニ日本ト英國及和蘭間ニ於ケル普通ノ條約廢棄問題サヘ起リ居ルニ非スヤ等縷々辯スル所アリタリ

仍テ本大臣ヨリ換算率協定ニハ商議ヲ繼續ストアルニ拘ラス「ソ」政府ハ一方的ニ換算ヲ變更シ之ヲ發表シ日本當業者ニ強要セル處斯ル事ハ世界ニ類例無シ換算率ハ協定ニ依リ決定シタルニ一方的ニ變更シ通知ノミニテ決定セリト言フコトカ協定違反ニ非ストセラル、ヤ的確ナル「ソ」政府ノ回答ヲ承知シ度シ本件カ「モスコ一」ニ於テ容易ニ解決セサル爲貴大使ヲ經テ「ソ」政府ノ回答ヲ得度キ次第ナリト述ヘタル處大使ハ詳細「モスコ一」ニ報告スヘキ旨答ヘタリ

浦潮ニ轉電シ哈府ニ暗送セシム

~~~~~

228 昭和9年3月19日 在ソ連邦大田大使より
広田外務大臣宛(電報)
漁区競売問題およびルーブル換算率改訂問題
に關しソコリニコフ外務人民委員代理との会

第一三〇號(至急)

本省 3月19日前着

飛行機越境問題ニ關スル貴電第八四號ノ回答ヲ與フル爲十七日「ソコルニコフ」ヲ往訪セル際漁區入札ニ付前回提示シ置キタル我方解決案ニ付蘇側其後ノ決定如何ト督促セルニ「ソ」ハ前回ノ會見ニ於テ本使ノ言葉ニ依リテ日本政府ハ換算率改訂交渉ニ着手スルニ同意セルモノト諒解シタルカ右ハ其通リナリヤト問ヒ本使ヨリ前回御話ノ次第ハ政府ニ申送レルモ其後何等訓令無シト言ヘルニ「ソ」ハ日本新聞ニ外務省代表者ノ言明トシテ日本政府ハ換算率改訂交渉ニ同意ナリトアル由ナルカ右ハ如何様解スヘキカ何等貴大使ヨリ日本政府ノ態度ヲ説明サレタシト言ヘリ之ニ對シ本使ヨリ新聞ニ如何ナル記事アリタルカ知ラサルモ政府ヨリ未夕何等回答無キハ事實ナリ自分カ或ハ政府ハ應スルヤモ知レスト言ヒシコトアルハ事實ナルモ自分ノ推測ニテハ政府トシテハ入札問題ヲ先決問題トナシ居ルモノト思考ス又蘇側ニテハ換算率ノ値上ヲ主張スルモノナルモ日本側ニテ

ハ寧ロ之カ值下方ヲ要求スルノ考ヘヲ有スルヤモ知レスト述ヘタルニ

(2) 「ソ」ハ值下云々ハ不眞面目ナル話ナレハ予ハ此ノ事ニ付テハ議論セサルヘシ予ハ前回會見ニ於テ日本側ハ改訂交渉ニ同意ナルモ只其ノ前ニ浦潮紛爭ヲ解決センコトヲ求ムルモノト解シ居タリ而モ右ハ最近ノ報道ニ見ユル日本外務省代表者ノ言明ニ依リテ裏書セラレ居レリ而シテ先日ノ日本側提案ニ付テハ蘇側ニ於テ慎重ニ研究シ事件ノ解決ヲ急ク爲既ニ回答ヲ與フルコトトナリ「ユレーネフ」大使ヨリ廣田大臣ニ申出テシムヘキモ該回答内容ハ即チ蘇側ハ「アコ」債券ノ換算率值上改訂交渉ヲ直ニ開始スル條件ノ下ニ浦潮問題解決ノ爲必要ナル措置ヲ講スヘク右改訂交渉ハ入札問題解決後直ニ行ハルルヲ要スヘク保證金及一九三四四年ノ前半期ニ對スル借區料ハ舊換算率ニ依リ圓貨ニテ受入ルルコトニ同意ス

(3) 而シテ若シ右話合成立スルニ於テハ蘇側ハ追加競賣ニ付浦潮經濟機關ヲシテ豫テ渡邊總領事ヨリ日本ニ利害關係アリトシテ申出テ居レル漁區四十一ヶ所ニ付蘇側ヲシテ日本人ト競争セシメサル様取計フコトニ同意ス細目ハ協定出來次

右ハ既ニ「ユレーネフ」大使ニ訓令濟ナリヤト問ヒタルニ之ヨリ發訓スル積ナリト答ヘ尙本使ヨリ只今ノ御話ニ浦潮ノ競賣進行ニ換算率改訂交渉應諾ヲ條件トシ居ラルルカ抑々換算率ニ關スル問題ハニアリ一ハ一九三一年漁區安定協定シ

ニ關スル場合ト他ハ競賣漁區ニ關スル場合トノ二之ナリ而シテ安定協定ニ依レハ一九三六年迄凡テ同一條件ニテ進ム

コトトナリ居リ從テ改訂範圍ニ入ラサルモノト言ハサルヲ得ス依テ御話ノ件ハ入札ニ附セラルヘキ部分ノミニ關スルモノト思考サルル處此ノ點如何ト問ヘルニ「ソ」ハ兩者ノ何レモ「アコ」債券支拂ナルヲ以テ換算率問題ハ右兩者ノ

場合ヲ含ム而シテ借區料ハ事實圓ヲ以テ拂込ムコトニ定マリ居タルヲ其ノ後日本側カ一方的ニ圓ヲ下ケタル次第ニテ即チ右ハ安定協定ノ變更ナリト言フヘク蘇側ノ主張コソ安定協定ニ變更ヲ加ヘサルモノナリト述ヘ居レリ本使ハ經濟上ノ論議ハ何レ之ヲ爲スノ機會アルヘキ處安定協定ハ借區料其ノ他ノ支拂ニモ關係アルヘキモノニシテ此ノ點ハ須ク法律的ノ解決ヲ爲スヘキモノナリト述ヘ置キタルカ右ハ本使參考ノ意味ニテ持出シタルモノナルコト又既ニ午後九時トナリ「ソ」ニ於テ差支モアル模様ナリシニ依リ此ノ上議論ヲ進メス當日ノ會談ヲ終レリ

浦潮、哈府へ轉電セリ

月中ニハ換算率引上交渉纏ルヘク前半期分ヲ旧換算率ニ依ルコト、セルハ競賣ヲ無事ニ執行セン爲ナリト答ヘタリ仍テ本大臣ヨリ「ソ」側ハ競賣方法ニ付「モスコー」及浦潮ニテ申入レタル日本側條件ヲ容レラレタル次第ナリヤ四十二漁區ニ關シテハ尙取調フル必要アリ又換算率引上交渉開始ニ關スル問題ハ當業者ノ意見ヲ徵スル必要アルニ付追テ返事スヘシト述ヘタルニ大使ハ競賣方法ニ付日本側ノ條件ヲ承知セサルモ競賣ハ新ニ執行セラル、次第ナリ「ソ」側提議ニ對シ浦潮競賣後直チニ換算率交渉開始ニ同意ナルヤ承知シ度シト述ヘタルニ付本大臣ヨリ「ソ」側提議ニ對シテハ曩ニ述ヘタル手續ヲ經テ成ヘク早ク回答スヘキモ換算率引上交渉開始ヲ條件トシ居ル點厄介ナル旨答ヘ置キタリ

浦潮ニ轉電シ哈府ニ暗送セシム

~~~~~

230 昭和9年4月11日 在ソ連邦大田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

北樺太石油試掘権延長問題に関しては具体的  
計画案の提示があれば交渉に応じるとのソ連

229 昭和9年3月20日 広田外務大臣より  
在ソ連邦大田大使宛(電報)

漁区競売問題に関しソ連側の部分的讓歩につき在本邦ソ連邦大使より申出について

モノト思考サルル處此ノ點如何ト問ヘルニ「ソ」ハ兩者ノ

何レモ「アコ」債券支拂ナルヲ以テ換算率問題ハ右兩者ノ

場合ヲ含ム而シテ借區料ハ事實圓ヲ以テ拂込ムコトニ定マ

リ居タルヲ其ノ後日本側カ一方的ニ圓ヲ下ケタル次第ニテ

即チ右ハ安定協定ノ變更ナリト言フヘク蘇側ノ主張コソ安

定協定ニ變更ヲ加ヘサルモノナリト述ヘ居レリ本使ハ經濟

上ノ論議ハ何レ之ヲ爲スノ機會アルヘキ處安定協定ハ借區

料其ノ他ノ支拂ニモ關係アルヘキモノニシテ此ノ點ハ須ク

法律的ノ解決ヲ爲スヘキモノナリト述ヘ置キタルカ右ハ本

使参考ノ意味ニテ持出シタルモノナルコト又既ニ午後九時

トナリ「ソ」ニ於テ差支モアル模様ナリシニ依リ此ノ上議

論ヲ進メス當日ノ會談ヲ終レリ

浦潮、哈府へ轉電セリ

~~~~~

第九一號

本省 3月20日後8時20分発

十九日「ユレーネフ」大使本大臣ヲ來訪シ貴電一三〇號中段「ソ」側回答内容ト略同趣旨ヲ申出テタリ(尤モ漁區ニ

關シテハ「ソ」政府ハ渡邊總領事及日本當業者カ浦潮官憲

ニ對シ請求セル四十二漁區ヲ來ルヘキ競賣ニ於テ日本漁業者ニ與フルコトニ同意スト述ヘ細目ノ點ニ付何等言及シ居ラス)仍テ本大臣ヨリ「ソ」側ハ依然第一回競賣ノ有效ヲ認メス新ニ競賣ヲ爲ス建前ナリヤト質問セル處大使ハ新ニ競賣ヲ行フ趣旨ト解スト答ヘ尙換算率ハ圓貨ノ暴落ニ鑑ミ引上ケラルヘク「ソ」側今回ノ讓歩ハ換算率引上ヲ條件トス旧換算率ハ「ソコリニコフ」ヨリ大田大使ニ申出テタル時ヨリ廢棄セラレタリト言ハレ乍ラ前半期ハ三十二錢五厘ニテ可ナリト言ハル、理由如何ト尋ネタル處大使ハ今後數ヶ協定廢棄セラレタリト言ハレ乍ラ前半期ハ三十二錢五厘ニテ可ナリト言ハル、理由如何ト尋ネタル處大使ハ今後數ヶ

(付記)

庶務第三〇號

昭和九年四月十三日

利權本部長の内話について

付記

四月十三日付北樺太石油株式会社より東郷歐米局長宛庶發第三〇号

試掘権延長問題につき利權本部長と交渉について

モスクワ 4月11日後発
本省 4月12日前着

第一七六號

客年往電第六一二號ニ關シ(石油利權契約改訂問題)

既ニ小高ヨリノ本社宛電報ニテ御承知ノ通リ九日利權本部長ハ小高ニ對シ試掘期限延長問題ニ付テハ會社側ニ於テ重工業商^(省)トモ協議ノ上具體的計畫案ヲ呈示セハ審議スルコトト爲スヘキ旨述ヘタル趣ナル處「ソコリニコフ」トハ近ク會見スルコトトナリ居ルニ付其ノ際本使ヨリモ「ソ」ニ對シ會社側ノ要望達成方ニ關シ申入ヲ爲ス筈

外務省歐米局長

東郷 茂徳殿

利權根本要求ニ關スル件

頭書ニ關シ別紙ノ通り來電有之候ニ就テハ之ガ對策目下考究中ナルモ不取敢及報告候也

(別 紙)

昭和九年四月十日

發信人 モスクワ小宅

本 社 宛

中央交渉ニ關スル件

昨日利權本部長ト會見ニ於テ、最初先方ハ會社願書ノ内容ハ政府ニ於テ審議セルモ遺憾ナガラ應ズルコト能ハズト決定セル旨言明セルニ依リ會社ハ蘇政府ニ於ケル會社願意ノ採擇ガ兩國親善關係ノ增進ニ貢獻スルコト大ナルベキヲ信ジ且先ニ願書ノ提出ニ當り今回ノ請願事項ハ夫々相當ノ理由ヲ有シ、ソレ等ハ交渉ノ進捗ニ應ジ逐次説明スベキコトヲ陳述シ置ケルニ拘ラズ斯ク簡單ニ決定ヲ與ヘラレタルハ頗る遺憾ナリト述べ更ニ試掘期限延長ノ如キ如何ナル理由ニテ拒絕セラル、ヤト質問セル處本件ハ絶対ニ拒絕スルモ

即チ

試掘期限ノ延長問題ハ北京條約ニ關係ヲ有シ結局兩國政府間ノ協定ニ待ツベキモノナルヲ以テ蘇政府トシテ本件ノ審議ヲanas以上問題ノ内容ハ最モ具体的ナルヲ要ス、故ニ會社ハ此際試掘地開發ノ實行計畫ヲ樹立シテ之ニ必要ノ説明ヲ與ヘ以テ期間ノ不足ヲ立證スルノ要ス、然シテ會社ノ試掘計畫ハ其性質上之ガ管轄機關タル重工業署^(省)ト協定セラレンコトヲ望ム

此處ニ於テ當方ハ直チニ先方ノ提議ヲ容レ之ガ實行ヲ約セルニ付本社ニ於テ更メテ今後八ヶ年ノ試掘計畫ヲ立案セラレ御通知乞フ

尙右ノ交渉ニ於テ試掘地區形狀變更ノ件モ重工業署^(省)トノ交渉ヲ必要トスルコト明カトナレリ

其他ノ要求事項ニ關シテモ一通り論議セシガ法律緩和ノ件ニ關シ既ニ發布セラレタル法規ノ緩和困難ニシテ將來發布セラルベキ労働法規ノ如キニ就テハ其都度之ガ利權ニ對スル適用ニ關シ説明ヲ與フベキ旨言明アリタル外何等具体的トナレルモノナシ

右大使館ヘモ報告済

231 昭和九年四月十四日 在ソ連邦大田大使より
付記 広田外務大臣宛(電報)

北樺太石油試掘權延長問題への好意的斡旋方ソコ

リニコフ外務人民委員代理へ申入れについて

付記 九月十二日付中里(重次)北樺太石油株式会社

社長より東郷歐亞局長宛庶発第七九一号
北樺太石油株式会社の事業に対するソ連当局の各種圧迫に対し保護方要請について

モスクワ 4月14日後発

本省 4月15日前着

(付記)
庶發第七九一號
昭和九年九月十一日

北樺太石油株式會社

取締役社長 中里 重次

外務省歐亞局長 東郷 茂徳殿

豫テ御報告致置候通り今春以來蘇側官憲ノ企業ニ對スル態度別シテ惡化シ來リ或ハ北樺太各事業地行日本船ノ隻數ヲ制限シ以テ事業用品並人員ノ輸送計畫ニ齟齬ヲ來サシメ又ハ利權契約ニ基ク日本人労働者輸送權ノ實施ヲ阻止シ現場到着期ヲ遲延セシメテ夏期繁忙期ニ於ケル作業ノ進捗ヲ妨

ニアラズ期間終了迄ニ會社ハ尙約三ヶ年ヲ有スルヲ以テ交渉ノ時期尙早ナリト思考スルモノニシテ將來必要ノ時期ニ於テ更ニ審議スルコトアルベシトノ挨拶ナリシヲ以テ當方ハ本件ノ決定ハ此上一日ノ遲延ヲモ許サズ今日ガ最後ノ時期ナル事情ニ關シ現地ニ於ケル作業ノ實情及試掘ニ對スル日本政府ノ態度其他本件ガ先般ノ議會ニ於テ論議セラレタル事實等ニ就キ縷々説明シ種々應酬ノ結果先方ハ左ノ如キ意見ヲ提示セリ

クルニ至ラシメ同シク利權契約ノ條項ヲ無視シテ從業員家族ノ渡航手續ヲ故意ニ複雜ナラシメ若クハ各油田地間ヲ接続スル電話線ノ架設ヲ拒ミ(本件ハ最近承認サレシモニケ月以上交渉ニ時日ヲ空費セルヲ以テ今後僅々一ヶ月ノ作業ヲ實施シ得ルノミ)甚シキハオハ會社礦区内ニ無斷鐵道部宿舎其他ノ建物ヲ建造シ再三ノ抗議ニ對シテモ恬トシテ顧ル處ナキ等頻々トシテ不當行爲ヲ繰返シ居候依テ小職ハ七、八月ニ亘ル事業地巡視ニ際シ此等事件ノ爲メ被リタル影響ヲモ調査スルト共ニ他面現場官憲ノ態度ヲ検察シ今後ノ善後策ニ資センコトヲ腐心セル次第ニ御座候

(省略)別記ハ企業地ニ於テ視察セル事業ノ概要ト現場官憲ノ態度ニ關スル概要ニ有之候カ特ニ遺憾トスル處ハ作業遂行ニ直接關係多キ礦山監督、勞働監督並技術監督等カ地方的ノ特殊事情ヲ考慮スルトコロナク常ニ當該法規ヲ最少狹義ニ解釋シ之カ適用ヲ迫ルノミナラス時ニ單ナル自個ノ裁量ニ依リ非合法ノ要求ヲ敢テスルコト一再ナラス爲ニ當該年度計畫遂行ノ遲延惹ヒテハ產油量ニ影響スルコト多大ニ候反之隣接礦區ニ於テ稼行スル國營トレースト石油企業ハ常ニ關係官憲ヲ始メ組合等ヨリ凡ユル便宜ト共助ヲ與ヘラレ其ノ

運命ニ遭着スルノ虞ナキヤヲ患ヒサルヲ得ス候惟フニ企業ハ決シテ單純ナル經濟利權ニアラス國防上特ニ緊要ナル燃料國策代行ノ重要機關タリト認ムルヲ以テ國權擁護ノ意味ヨリ何等カ適當ノ御處置ヲ御實施下サレ候様幾重ニモ奉懇願候卒直ナル小職ノ希望トシテハ南樺太國境附近ニ若干ノ兵力ヲ駐屯セシメ又北海警備ノ艦船ニ對シ少クモ往航又ハ復航ニ又ハ其ノ他ノ場合ニ東海岸領海外ヲ陸上監視所其ノ他ヨリ望見シ得ル距離ニ於テ遊弋センメラル、ヲ得ハ先方ノ態度ハ必スヤ相當緩和スヘキハ想像ニ難カラサルノミナラス我現業員ノ業務ニ對スル熱心勇氣先方ニ對スル態度ノ強硬化共ニ數倍シ今日ノ苦境ヲ脱スルヲ得ヘシト信スルモノニ候素ヨリ右ハ局外タル小職ノ輕々シク口外スヘカラサルコトニテ且ツ限リアル兵力ト財政ノ關係上容易ナラサルヘク候モ聞ク所ニ依レハ蘇側ハ國境ニ相當ノ兵備ヲ整ヘ又亞港其他要所ニ於テモ兵力ノ充實ニ腐心シツ、アリトノコトニテ彼已ニ此ノ舉ニ出ツル以上我亦之ニ酬ユルコト却テ紛争ヲ輕減シ兩國ノ善隣關係ヲ増進スル所以ナラント被存候

勢力官憲ヲ凌駕スルヲ以テ急速度ノ發展ヲ遂ケ最近ノ產油ハ日產約八百噸ヲ算シ遙ニ我方ヲ凌クノ盛況ヲ呈スルニ至リ候處右ハ一面採掘場所ノ位置相異ニ依ル關係ニアリトスルモ上述ノ如キ官憲其他ノ彼我兩企業ニ對スル差別待遇カ與テ力アルコトハ看過スヘカラス候小職ハ數年前ヨリ幾度カ此ノ不當待遇ヲ絶叫抗議シ來リ候モ表面國營企業ノ違法行為ニ對シテハ夫々法ニ據テ處分シツ、アリテ何等兩者間ニ差別ヲ設ケスト稱シ居ルノミニテ毫モ反省ノ跡無之候以上ノ壓迫横暴ハ要スルニ國內法ニ遵據スヘク義務付ケラルニ基クモノニ候モ現地ニ於テ何等實力ノ背景ナク重圍ノ間ニ孤軍壘ヲ守ルコト先方ヲシテ一層暴威ヲ逞クセシムルモノト認メサルヲ得ス候彼ノ日魯漁業カ主トシテ海上作業ナルニ不拘而カモ年々帝國驅逐艦ノ援助ニ依リツ、モ幾多ノ紛爭ヲ繰返シツ、アルコト、今春露船ヲ拿捕シテ一時大湊ニ抑留セル果斷ノ舉カ先方ノ暴壓ヲ免ル、ニ至リシトノ事實カ如何ニ背後ニ於ケル實力ノ勢威大ナルカヲ如實ニ語ルモノト可申小職ハ敢テ事ヲ構フルヲ欲スルモノニ非況ヤ他國ノ領域内ニ兵力ヲ行使スルノ謂レナキハ素ヨリ承知致候モ此儘ニシテ推移センカ企業ハ遂ニ起ツヘカラサル

232 昭和9年5月19日 広田外務大臣より
在ソ連邦大使宛(電報)

ループル換算率改訂交渉は東京において開催
したいとのソ連側意向に対しても方モスク
ワ開催を主張について

付記 五月十一日付、作成局課不明

「広田大臣ユレネフ大使会談要録」

本省 5月19日後9時0分発

第一五七號

五月十八日「ユレネフ」大使本大臣ヲ來訪シ漁業問題ニ付本國政府ヨリ訓令アリタリトテ()換算率ニ關スル交渉ハ政府間ノ交渉トシテ東京ニ於テ行フコト()競賣ハ三月五日ノ競賣ノ繼續トシテ五月二十五日執行スルコト尙四十七漁區中四十二漁區ニ付テハ「ソ」側ハ競争セス五漁區ニ付テノミ競争スルコト又換算率ノ交渉ハ競賣執行後直ニ行フコトトスヘキ旨申入レタル後政府ノ命令ニハアラサルモ自分ハ漁業問題ヲ精シク承知セサルニ付換算率ノ交渉ハ「カズロフスキ」ニ依頼スルコトセリ尤モ問題起ルトキハ貴大臣ト本使トニ於テ交渉スルモノトスヘキ旨述ヘタルニ對シ本

大臣ハ競賣ハ可成早ク行フヲ可トス當業者ハ二十日頃ニ行ハルルコトヲ希望シ居レリト述ヘタルニ大使ハ二十五日トルコトハ既ニ極東漁業廳ニ於テ決定シ之ヲ發表シタルモノト思考セラレ且餘日モ少キニ付之ヲ二十日ニ繰上クルコトハ技術上不可能ニ非スヤト思考ス「ソ」側トシテハ寧日本當業者カ一、二日延期ヲ希望スルニ非スヤト思考シタル程ニテ之ヲ二十日ニ繰上クルコトハ殘スコト僅ニ二日故當業者ノ希望ハ二十日ナル故同日トセラレタキモノナリ少クトモナラハ二十一日カ二十二日トセラレタキモノナリ少クトモ二十五日ヨリ早カラソコトヲ希望スト述ヘタルトコロ大使ハ漁業廳ニ於テ決定ヲ發表シタルモノセハ變更困難ナルヘク御希望ニ副フ様御約束ハ出來サルモ御希望ノ點ハ莫斯科ニ報告スヘシト述ヘタルニ依リ本大臣ハ是非莫斯科ニ請訓セラレタシ次ニ換算率問題ノ交渉ヲ政府間ニ於テ行フコトハ過日モ話シタル通適當ニ非スト思考スト述ヘタルニ大使ハ幣原「トロヤノフスキイ」協定ハ國家間ノ協定ナレハ今回ノ交渉モ政府間ノ協定タルコトヲ要ス日本政府トシテハ當業者ノ意見モ聽キ又當業者ニ命ヲ授ケ交渉セシメラル

於テ任命セラルレハ何等不便ナカルヘシト述ヘタルニ依リ本大臣ハ當業者カ貴方機關ト交渉ヲ爲シタルコトハ事實ニシテ問題ノ起リハ貴方ニ於テ在浦潮朝鮮銀行ヲ閉鎖シタル爲ニシテ樺山氏ハ屢「トロ」ト交渉セリ換算率問題ハ當業者自身ノ「ポツケット」ニ關スル問題ナレハ政府ニ於テ決定スルコト不可能ノ問題ナリ然ルニ右ノ通本大臣ノ説明ニ拘ラス政府間ノ交渉ト爲スコトヲ主張セラルナルハ我方トシテ當業者ノ意見ヲモ聞キ研究シタル上何分ノ回答ヲ爲スコトトスヘシスル問題ノ起ルハ「ソ」側制度ノ他國ト異ルカ爲ニシテ留カ世界ニ流通シ居ラハ留ノ國際相場モ自然定マリ何等問題起ラサル筈ナルカ「ソ」側ノ制度カ特別ナル爲スル問題起ル次第ナリ日本政府トシテハスル問題ニ付第一ニ考量スヘキハ當業者ノ意見ニシテ國家ニ於テ「ソ」側ト換算率ヲ協定シ之ヲ當業者ニ強要スルコトハ不可ト思考シ居レリト述ヘタルニ大使ハ國家カ當業者ノ「ポツケット」ニ關スルコトヲ勝手ニ決定シ得サルハ尤ナリ然シ外務省ハ當業者ノ利益ヲ擁護スルコトナルモノナレハ政府間ノ交渉トシテ差支ナキニ非スヤ本件ニ關スル貴方ノ回答ハ出來ルタケ早ク承知致タシ實ハ換算率ノ交渉ニ關スル「ソ」

ルモ一ツナラン併シ協定ハ貴大臣ト本使トノ協定ト爲スキモノナリト述ヘタルニ依リ本大臣ハ幣原「トロ」協定交渉ノ際ハ日本當業者ト貴方官憲トノ間ニ行ハレタルモ結局妥結ヲ見サリシ爲政府間ノ交渉トナリ協定成立シタル次第ナリ今モ同様ノ方法ヲトリ協定ヲ的確ニスル爲或ハ最終的ニ政府間ノ取極トナスモ可ナランモノ最初ヨリ政府間ノ交渉ト爲ス場合ニハ日本側トシテハ矢張當業者ノ意見ヲ取次クニ過キサルヲ以テ寧口先ツ當業者ノ精通者ト話ヲ爲スコト然ルヘシト思考ス當業者中精通者ト言ヘハ莫斯科浦潮ニ於テ貴國機關ト交渉ノ方當業者トノ交渉ヨリモ遙ニ效果的ナラント述ヘタルニ依リ本大臣ハ自分ハ貴使ト全然意見ヲ異ニス前回ノ協定ハ豫メ當業者ト貴方トノ間ニ充分商議ヲ爲シ最後ノ瞬間ニ政府ニ於テ引受ケ之ヲ纏メタルモノナリト説明シタルニ大使ハ自分ノ調ニ依レハ「トロ」ハ當業者ト交渉シタルコトナシトノコトナリ大使カ當業者ト交渉スルカ如キハ正常的ノ遣方ニ非ス國家間ノ重大問題ハ外務省ト大使館トノ間ニ交渉スヘキカ本筋ナリ田中丸ハ政府ニ

カルヘシ何レノ國モ公定相場ナルモノヲ設ケ居ルモソハ國際間ノ爲替相場ニ依リ左右セラルモノナルカ貴方ノ公定相場ハ之ト趣ヲ異ニス然ルニ斯ル公定相場ニ依ルヘシト言ハルルコトハ普通ノ觀念ト異レリ「アコ」債券ヲ買フコトハ漁業條約ニ何等ノ根據ナキモノニシテ只支拂ノ辯法トシテ日本當業者之ヲ利用シ來レルモノナリト述ヘタルニ大使ハ併シ留ノ公定相場ハ「ソ」聯邦ノ領域ニ關スル限り實行セラレ居リ「アコ」債券ハ御話ニ依リテモ察セラル通當業者ニトリ都合ヨキ便法ナリト述タルニ依リ本大臣ハ「アコ」債券ヲ作リタルコトハ便法トシテ良キコトナリト述ヘタルニ大使ハ貴大臣ハ日本當業者ハ「アコ」債券ヲ買フ義務ナシト言ハルルモ「アコ」債券ノコトハ幣原「トロ」協定ニアルニ非スヤト述ヘタルニ依リ本大臣ハ自分ハ莫斯科ニアリテ交渉ノ衝ニ當リタルコトモアリ良ク記憶スルカ換算率ノ交渉ハ留ノ換算率ニ關スルモノニシテ「アコ」債券ノ如キハ最初ヨリハ話ナカリシモノナリ最初留ノ換算率決定セラレ其ノ後ニ至リ「ソ」政府ニ於テ「アコ」債券ヲ發行シ日本人ハ之ヲ右協定ノ換算率ニテ入手シ借區料等ニ充當シ得ル旨ノ法律ヲ發布シタルモノナリ抑々留換算率問題

セラレ居リ「アコ」債券ハ御話ニ依リテモ察セラル通當業者ニトリ都合ヨキ便法ナリト述タルニ依リ本大臣ハ「ア

(付 記)

広田大臣ユレネフ大使会談要録

昭和九年五月十一日午後三時四十五分ユレネフ大使広田大臣ヲ來訪シ

一、漁業問題 挿算率交渉及競賣問題

一、ペシコフ問題

ニ付会談五時半辞去セリ会談要領左ノ通

大使 漁業問題ニ付本國政府ヨリ回訓アリタルニ付傳達ノ

爲御伺セリ

ソ政府ハ交渉ノ進捗ヲ容易ニシ且一般ノ空氣ヲ改善スル爲アコ債券換算率ニ關スル交渉ニ付從來ノ主張タル引上

レシト云ハレタル趣ナリ右ニテ競賣ヲ行フコトナレハ

四十二漁区ニ付テハソ側ニ於テ日本人側ノ漁区ト認メ居

リ自分ハ競賣ノ手續等ハ詳細承知セサルモ要スルニ右漁

区ニ付シテハソ側ハ競争セスト云フ趣旨ニシテ五個ノ漁

区ハソ側ニ於テ取得スル諒解ト考ヘ右五個ニ付テハ日本

側カプレテンドセサルモノトス

大臣 今回ソ政府ニ於テ換算率交渉ニ付引上ノ條件ヲ削除

セラレタルコトハ漁業問題全体ノ解決上結構ナルコトト

思考ス唯日本當業者トシテハ引下ヲ切望シ居ル次第ナル

ヲ以テ果シテ東郷局長ニ於テ換算率ヲ引上クル餘地アル

カニ云ハレタルヤ否ヤ自分トシテ疑ハサルヲ得ス此ノ点

ニ付何等誤解無キヲ求ム免ニ角當業者ニ対シテモ交渉ヲ

起リタルハ貴方ニ於テ朝鮮銀行ヲ閉鎖シタル結果ニシテ夫レ迄八十錢乃至十五錢ニテ留ヲ取得シ得タルモノヲ該協定ニ依リ三十二錢五厘ニテ留ヲ取得スルコトトナリタリトテ當業者ハ盛ニ幣原男ヲ攻撃シタルモノナリト述ヘタルニ大使ハ以前ノ歴史ハ如何アリトモ協定ヲ見タルハ「アコ」債券ノ換算率ナリト述ヘタリ

浦潮へ轉電シ哈府へ暗送セシム

セラレ居リ「アコ」債券ハ御話ニ依リテモ察セラル通當業者ニトリ都合ヨキ便法ナリト述タルニ依リ本大臣ハ「アコ」債券ヲ作リタルコトハ便法トシテ良キコトナリト述ヘタルニ大使ハ貴大臣ハ日本當業者ハ「アコ」債券ヲ買フ義務ナシト言ハルルモ「アコ」債券ノコトハ幣原「トロ」協定ニアルニ非スヤト述ヘタルニ依リ本大臣ハ自分ハ莫斯科ニアリテ交渉ノ衝ニ當リタルコトモアリ良ク記憶スルカ換算率ノ交渉ハ留ノ換算率ニ關スルモノニシテ「アコ」債券ノ如キハ最初ヨリハ話ナカリシモノナリ最初留ノ換算率決定セラレ其ノ後ニ至リ「ソ」政府ニ於テ「アコ」債券ヲ發行シ日本人ハ之ヲ右協定ノ換算率ニテ入手シ借區料等ニ充當シ得ル旨ノ法律ヲ發布シタルモノナリ抑々留換算率問題

大臣 然シ日本側ハホツテ置ケハ腐ル魚ヲ賣リ其ノ賣上金一千七百円餘保管シ居リ夫ヲ今回ノ回航費ニ廻シ其ノ外出

帆ノ際淡水及機械油等ハ日本側ヨリ提供スト云フナリ
大使 船ヲ押ヘサレハ魚モ腐ルコトトナラサルヘク魚ニ対
スル責任ハ日本側ニアリ從テ魚ノ賣上代ヲ以テ回航費ニ
充ツルコトハ妥当ニ非ス淡水機械油等ヲ日本側ヨリ提供
サルトノコトナルモ右ハ差シタル事ニ非スソ側トシテ
ハ色々主義上大讓歩ヲ爲シタル次第ナレハ回航ノ費用ヲ
半々ニ分擔スルコトニ致シ度シ実ハ平時ニ於テ一國ノ駆
逐艦カ他國ノ汽船ヲ抑留スルト云フカ如キハ重大問題ナ
ルカソ側ハ之ヲ國民ニ知ラシメス外國ニモ秘シ居リ國內
及外國ノ与論ヲ騒ガスルコト無キ様努メ來リタルカ之レ
以上讓歩スルコト不可能ナリ漁期モ初マリペシコフ号カ
其ノ儘仰留セラレ居ルコトハソ側ニトリ少カラサル損害
ナリ

大臣 然シ貴方ハ損害賠償要求ノ点ハ撤回セラレタルニ非
スヤ
大使 過去ニ對スル損害ノ要償ハ思ヒ止リタルモ今後ノ漁
期ニ受ケル損害ハ問題ナルヘシ

大臣 然シ貴我双方即チ琴平丸ニ付テモ亦ペシコフ号ニ付
テモ互ニ賠償ヲ要求セストノ建前ニテ交渉ヲ進メ居ル次
ノ噂アリ

解決ヲ計ランカ爲ナリ日本側トシテハ大湊ヨリ函館迄ハ
自分ノ費用ニテ回航スル次第ニシテ一部ノ回航費ハ之ヲ
負擔スルワケナリ本日ハ之レ以上討議スル必要ナシ御話
ノ通り愈漁期始マリ右ニ付問題起ラサル様致度ク大田大
使ニ訓令シ貴國政府ニ申入レシタル次第ナルカ貴國ニ
於テハ數隻ノ潛水艦ヲカムチヤツカニ派遣シ警戒スルト
ノ噂アリ

大使 右ハ大田大使ヨリノ報告ナリヤ

大臣 当業者間ニ斯ル話アリ當業者ハ危險ヲ感シ居レリ
大使 貴大臣ヨリペシコフ号事件解決ノ爲何カ新ラシキ提
案アリト思ヒシニ從來ノ日本側主張ヲ固執サルルノミナ
リ其ノ通莫斯科ニ報告スヘシペシコフ号事件ノ如キハ重
大事件ニシテ何等危險ナル紛糾起ラスシテ事済タルハソ
側ノ平和愛好ニ依ルモノナリ尚潛水艦云々話ハ愚ニモ

ツカサル話ナリソ側トシテハ當業者ヲ嚇スコトハセス然
シペシコフ号事件ハ繰返サルヘキモノニ非ス
大臣 日本臣民カ漁業條約上ノ権利ニ依リ貴國領水ニ於テ
漁業ニ從事スルニ対シ潛水艦ヲ以テ警戒スルト云フカ如
キハ戰爭氣分ヲ醸成スル結果トナルヲ以テ斯ル事無キコ

第ナラスヤ日本側ハ腐ル魚ヲ金ニ代ヘ之ヲ保管シ居リタ
ルモノニシテペ号回航費ノ如キハ此ノ金ヲ以テ充テ問題
ヲ解決スルコト最良方法ト思考ス

大使 自分ノ方トシテハ大臣ニ於テ斯ク頑張ルコトナク本
日即答ヲ求ムル次第ニモ非サルヲ以テ良クソ側ノ提議ヲ
研究アリタシ尚東郷局長ハ費用ノ一部ヲ日本側ニ於テ引
受クルモ可ナリト云ハレタルコトアリ

大臣 腐ル魚ヲ金ニ代ヘ之ヲ保管シ置キタルハ日本側ノ善
意ナレハ之ヲ以テ回航費ニ充テ問題ヲ解決スルカ最モ穩
当ナリ

大使 日本側ニ於テコレクトナ行動ヲ採ラレタルコトハ自
分モ認ムル所ニシテ其ノ点ハ莫斯科ニモ報告シ置ケリ然
シ船ヲ押ヘタルハ日本側ナレハ魚カ腐ルトセハ其ノ責任
ハ日本側ニアル次第ニシテ魚ノ賣上代ヲ以テ日本側ノ負
擔スヘキ回航費ニ充ツルハ穩当ナラス回航費ハ双方約二
千留宛負擔スレハ可ナル様ナルカ右浦潮ノ見積ハ正確ヲ
欠クヤニ思考セラルルニ付更ニ問合中ナリ

大臣 本件ニ付本日自分ヨリ云ヒ出シタルハ両國間ノ關係
上斯ル問題モ未決ノ儘殘ルハ望マシカラサルニ付何トカ
見ハ依然元通ト報告スヘキヤ

トヲ希望シ爲念御尋ネシタル次第ナリ

大使 日本駆逐艦ノソ領水附近游弋コソ異例ナリ魚ハスル
事無クシテ穢レル筈ナリ戰時氣分ハ寧ロ日本側ノ釀成シ
タル所ナリソ側トシテハ斯ル氣分ヲ更ニ濃厚ニスル考ナ
シ自分ハ何等潛水艦ニ関スルコトヲ知ラス

大臣 何レニスルモ空氣ノ良シカラサルコトハ事實ニシテ
日本側カ公海漁業ノ爲駆逐艦ヲ出シソ側カ又軍艦ヲ出ス
ト云フカ如キ事無クシテ漁業ノ行ハレンコトヲ希望ス
大使 自分ハ何等日本駆逐艦ニ付御話スル考無カリシモタ
マノヘ貴大臣ヨリソ側潛水艦ノコトヲ話シ出サレタルニ
付申出テタル次第ニシテ日本駆逐艦カ國際公法ニ從テ行
動スレハ何等問題起ラサル次第ナリソ側潛水艦ノコトハ
政府ニモ報告シ置クヘシ尚ペシコフ号事件ニ付テハ御意
見ハ依然元通ト報告スヘキヤ

大臣 依然元通ノ意見ナリ唯漁期ニ際シ空氣ヲ良クスル爲
迅速解決ヲ可トスルニ付日本ノ穩當ナル條件ニテ解決ス
ルヲ希望スルニ付右莫斯科ニ傳達アリタシ

大使 委細莫斯科ニ電報スヘシ

~~~~~

233 昭和9年5月26日 広田外務大臣より  
在ソ連邦大田大使宛(電報)

ループル換算率改訂交渉への當業者参加の可否等につき在本邦ソ連邦大使と会談について

本省 5月26日後7時0分発

#### 第一六四號

往電第一五九號ニ關シ

五月二十五日「ユレネフ」大使本大臣ヲ來訪ノ際換算率問題ニ關シ前回ノ貴大臣ノ提議ヲ莫斯科ニ報告シタルトコロ「ソ」政府トシテハ矢張交渉地ヲ東京ト爲シ度キ考ニシテ其ノ理由ハ莫斯科ニハ本件交渉ニ適當ナル人物ナキモ目下東京ニハ漁業問題ニ精通セル「コズロフスキイ」アリ日本側トシテモ東京ナラハ漁業問題ニ精通セル者外務省ニモ實業界ニモ多々之レアリト云フニアリト述ヘタルニ對シ本大臣ハ日本政府ノ意見ハ前回述ヘタル通政府間ノ交渉ト爲ス場合ニハ莫斯科ニ於テ行ヒ度ク又先ツ當業者ト貴方トノ交渉ト爲ス場合ニハ東京ニ於テモ可ナリトノ趣旨ナリ尤モ嘗テ大使カ言ハレタルコトアル浦潮ニテモ差支ナシト述ヘタルニ大使ハ嘗テ浦潮ト言ヘルモソハ自分限ノ意見ニテ莫斯科

ニ非ス本件ニ付利己的ナル當業者ト交渉ヲ爲ストキハ紛争ヲ來タス虞アルニ依リ外交交渉ト爲サンコトヲ主張スルモノナリトテ執拗ニ東京ニ於ケル交渉ヲ主張シ本大臣亦莫斯科ヲ固執シ日本政府ノ意嚮ヲ更ニ「ソ」政府ニ傳達スル様依頼シ置キタリ

浦潮ヘ轉電シ哈府ヘ暗送セシム

234 昭和9年6月2日 在中国若杉公使館一等書記官より  
広田外務大臣宛(電報)

#### 中ソ間の諸問題等に關し在中国ソ連邦大使よ

り意見聽取について

北平 6月2日後発  
本省 6月2日後着

#### 第二四三號

過日來當地滯在ノ「ソビエツト」大使「ボゴモロフ」ハ頻

リニ平津ニ於ケル支那側要人ト交驩中ナリシ處本月六日當

地發南京へ歸任ノ筈ナルカ本官二回同大使ト會談ノ際本官

ノ質問ニ應シテ答ヘタル要旨左ノ通り何等參考迄

一、蘇國ノ對支政策ハ他ノ諸國ニ對スルト同様ニ平和ト通商

科ハ之ニ同意スルコトナカルヘク政府間ノ交渉ナラハ莫斯科東京ノ何レカカ適當ナルモ「ソ」政府トシテハ前記ノ理由ニ依リ東京ト爲シタキ考ナリ又當業者トノ交渉ハ莫斯科政府トシテハ考ヘ居ラス當業者ハ利己的ニシテ客觀的ナラサルヲ以テ良好ナル結果ヲ期待スル能ハスト述ヘ本大臣ハ張スル理由アリ外務省ニハ留問題ヲ解スル者ナキモ莫斯科ニハ之ニ精通セル酒匂<sup>(ウカ)</sup>參事官アリ大田大使ヲ補佐シテ交渉ニ當ルヘケレハナリ尙本件交渉ヲ政府間ノ交渉ト爲ストモ實際ハ當業者ノ意見ヲ取次クニ過キサルヲ以テ本件解決ノ最良方法ハ先ツ東京ニ於テ貴方ト當業者トノ間ニ交渉ヲ爲シ問題ノ眞相及内容ヲ明ニスルニアリ而モ之レカ實際のニシテ本大臣ノ希望ハ當業者ト貴方トノ交渉ナリシナリ然ルニ貴方ハ之ニ同意ヲ與ヘ斯政府間ノ交渉ト爲シタキ旨提議シタルニ依リ之ニ同意スルト共ニ外務省ニハ留問題ヲ熟知スル者ナキニ依リ交渉地ヲ莫斯科爲スコトヲ提議セル次第ナリト酬ヒタルニ大使ハ問題ハ留ノ換算率ニ非スシテ「アコ」債券ノ換算率ナリ圓貨ノ變動ニ伴ヒ「アコ」債券ノ換算率ヲ適當ニ決定セントスルニアリ別ニ困難ナル問題

ノ促進ニアリ但通商關係ハ蘇支兩國共農業國ナル爲相互ニ交易スル物產ニ乏シク左シタル發展ヲ見ルヲ得ス  
一、通商條約ノ締結ハ望マシキモ支那側ニテハ他國トノ條約關係ヲモ顧慮シ容易ニ進捲セス英米ハ既ニ條約改訂ノ交渉ヲ開始セル由ナルモ未タ左シタル進捲ヲ<sup>(タガ)</sup>見サルカ如ニ  
二、蘇國ノ外交政策ハ隣接諸國ト個別ニ不可侵條約ノ締結ニ依リ和平ヲ確保シ國內ノ建説ヲ完成セントスルモノニシテ既ニ西方ニ於テハ殆ト主要各國ト同條約締結ヲ完了セルモ東方ニ於テハ未タ其ノ目的ヲ達セス支那トモ一向話進マサル狀態ナリ  
四、蘇國力聯盟ニ加入スヘキヤ否ヤハ一一聯盟ノ平和確保ノ能力如何ニ依リ決スヘク聯盟ニシテ有效ニ平和維持ノ機能ヲ立證シ得ハ蘇國ハ善<sup>(シカ)</sup>ノテ加入スヘク然ラスンハ強ヒテ加入ノ要無ク依然各國別ニ不可侵條約締結方針ニテ押進ムノ外無ク聯盟從來ノ成績ヲ見レハ平和維持カ有效ニ行ハレタリトハ即断シ難キ有様ナリ  
五、支那ノ統一ハ容易ノ業ニ非ス何人モ其ノ能否ヲ豫言シ難カルヘク結局隨時各地方ノ事情ニ應シ各地方別ニ當面ノ措置ヲ講スルノ外無カルヘシ

爲スコトニ同意シ來レリト述ヘタルニ依リ本大臣ハ大田大使ニ對シテモ莫斯科ヲ交渉地ト爲ス方針ノ下ニ貴方ト交渉中ナル旨通報シ置キタルヲ以テ交渉モ開始シ得ルコト思フカ當業者モ莫斯科ヘ代表者派遣ノ希望アルヘシト考フルニ付其ノ方モ可成早ク取運フコトスヘシト述ヘタル處大使ハ莫斯科ニハ漁業問題ニ精通セル人アリトテ同地ヲ交渉地ト爲スコトヲ主張セラレタルコトナレハ交渉ハ直ニ開始セラルヘク又當業者代表モ直ニ出發シ可然キモノナリ就テハ大田大使ニ對シ即時交渉ノ訓令ヲ發セラレタク當業者代表者ノ出發ハ交渉開始期ト關係セシメラレサランコトヲ請フ「ソ」側ノ交渉委員ハ「ユシュケーウイチ」及「ローゼンブリュム」ナリト述フ本大臣ハ訓令其ノ他ハ出來ルタケ速ニ取計フコトトスヘシト答ヘタルニ大使ハ然ラハ在「ソ」日本大使館ト「ソ」側外務部トノ間ニ直ニ交渉ヲ開始スル様訓令方御同意ナリトノ趣旨ニ解スヘキヤト問ヒタルニ對シ本大臣ハ然リト答ヘ尙實際問題トシテハ雙方ノ立場ヲ諒解シ合フコト必要ニシテ之カ爲ニハ當業者ノ意見ヲ參酌セサレハ實行上困難ヲ生スルニ依リ可成速ニ其ノ代表者ヲ派遣セシメタキ考ナルカ當業者問題ハ一應相談ノ上ナラテハ

ニテハ所謂共產土匪等ノ蜂起ハ當然ノ現象ナルヘシ  
外蒙及新疆方面ニ「ソビエツト」政權侵略說アルモ要ハ  
支那カ或ハ他國ニ依頼シ又ハ他國ヲ非難スル代リニ自國ノ  
自立ト保安ヲ先ニスヘキナリ  
ハ聯盟其ノ他外國ノ對支援助モ結構ニテ「ライヒマス」ノ  
報告書モ讀ミタルカ其ノ內容頗ル結構ナルモ之ヲ實現スル  
ニハ結局金ヲ要スル次第ナルカ之ヲ内債ニ仰カントスレハ  
前記ノ如ク租稅高ク軍資金國費ノ大半ヲ占ムル現狀ニテハ  
國內ニテ資金調達ノ途ナカルヘク左レハトテ外國債ニ依ラ  
ントセハ何國人ト雖支那人自身カ投資ヲ肯セサル狀態ノ下  
ニ支那資本ノ協力ナクシテ投資ノ危險ヲ敢テスルモノナカ

(2)南京政府ノ共產軍征伐ハ何等蘇聯邦ト支那トノ關係ニ影響アリヤトノ間ニ對シ大使ハ大ニ辯明ニ努メテ曰ク巷間蘇力支那内亂ヲ使嗾スルカ如ク宣傳スルモノアルモ之レ不當ノ邪推ニシテ支那内政ノ現狀ハ他國ノ宣傳ヲ待タストモ勞農細民ノ革命ヲ生スルハ自然ノ勢ナリ即チ支那ノ弱點ハ國費ノ殆ト大部分ヲ軍費ニ投シ阻稅苛酷ニシテ何等勞農ノ細民ヲ生活セシムヘキ經濟的施設ヲ行ハス支配階級ノミ權勢ヲ弄ヒ國民生活ト購買力ハ年々疲弊<sup>(筋カ)</sup>スル儘ニ放置サルル現狀

支  
南京  
瀬へ轉電シ、天津へ暗送セリ

六月四日「ユレネフ」大使本大臣ヲ來訪「ソ」政府ハ換算率問題ノ交渉地ニ付交渉ノ即時開始ヲ條件トシテ莫斯科ト  
往電第一六四號ニ關シ

第一七五號(至急)

ルーブル換算率改訂交渉開催地モスクワに決  
定について

本省 6月5日後7時0分發

出發ノ時日ヲ明言シ難キモ莫斯科ニ於テ大使館ト外務部ト  
ノ間ニ交渉ヲ開始スルコトハ當方ノ訓令到着次第爲シ得ル  
コトト思考ス右訓令ハ直ニ發スル積リナルカ當業者及關係  
官廳トモ打合セノ要アリ今明日ト言フ様ニハ行カサルヘシ  
ト述ヘタルニ大使ハ當業者及關係官廳ノ意向ハ夙ニ明瞭ノ  
コトナルヘク交渉遷延ノ理由トハナラサルヘシ「ソ」政府  
ハ左ナキタニ交渉ノ遷延ニ付不滿ナリ訓令ヲ發セラル迄  
二、三日以上ヲ要セラル、ナラハ莫斯科ニ請訓ノ要アリトナ  
述ヘタルニ對シ本大臣ハ換算率交渉ノ根本趣旨ハ明瞭ナリ  
併シ換算率引上ノ理由ト之カ引下ノ理由ト一致スルヤ疑問  
ナリ莫斯科交渉モ先ツ「ソ」側ノ意見ヲ聞クト言フコトナ  
ラハ準備ノ必要モナク直ニ交渉ヲ開始シ得ヘケンモ實際問  
題トシテハ雙方ノ主張ヲ明瞭ニスルノ必要アリト述ヘタル  
ニ大使ハ斯ル建前ニハ「ソ」側トシテ同意シ難シ換算率交  
渉ハ競賣後直ニ開始セラルル諒解ナリシトコロ交渉地問題  
ニテ遷延シタル次第ナルカ右モ解決シタル今日先ツ「ソ」  
側ノ意見ヲ聞クコトトシテ交渉ヲ開始スト言フカ如キ貴案  
ニテハ大田大使ニ於テ「ソ」側ノ意見ヲ聞カレタル後政府  
ノ訓令未タナシトテ交渉ヲ遷延セシムルコトトナリ望マシ

ルヘク且又投資ハ支那内地ニ行ハレス自然外國租界方面ノ事業ニ偏スルコトトナルヘク實際上外國ノ經濟援助モ聲ノミ大ニシテ其ノ實現ハ疑ハシク日本ノ朝野カ此ノ點ニ餘リ二神經過敏ナルハ寧口滑稽ナリ

カラサルニ依リ適確ナル訓令ヲ一、三日中ニ發セラレ度シ又換算率ニ付引下々ト言ハルルモ右ハ冗談ト解スルノ外ナシ「ソ」側ハ之ニ對シ理由アル反對ヲ爲スヘシト述ヘタルニ依リ本大臣ハ斯ル問題コソ交渉ヲ要スル點ナリ大田大使ニハ出來ルタケ速ニ訓令スル考ナリ我方トシテ別ニ遷延スルノ必要ナシ出來得レハ一兩日中ニ訓令スルコトトスヘシト答ヘタルトコロ大使ハニ、三日ノコトナラハ別ニ問題ナカラント述ヘタリ

浦潮ヘ轉電シ哈府ヘ暗送セシム

申進ノ趣旨ニテ田中丸ヲ貴地ニ派遣方組合側ト打合中ナルカ右ニ決定スルモ同人ハ準備ノ都合モアリ出發迄ニハ尙多少ノ日子ヲ要スヘキニ依リ同人ノ貴地着ヲ俟タス交渉ヲ開始セラレ差支ナシ

記

スルノ必要ナシ出來得レハ一兩日中ニ訓令スルコトトスヘシト答ヘタルトコロ大使ハニ、三日ノコトナラハ別ニ問題ナカラント述ヘタリ

236 昭和9年6月8日 広田外務大臣より  
在ソ連邦大田大使宛(電報)

ルーブル換算率改訂交渉における我が方基本

方針につき訓令

本省 6月8日後9時20分発

第一八五號(極秘)

往電第一七五號ノ通留換算率ニ關スル交渉地ハ愈々貴地ニ設定シタルニ付「ソ」側ヨリ交渉開始ノ申出アリ次第不取敢左ノ方法ニ依リ商議ヲ開始セラレタシ尙往電第一六〇號

二、本件交渉ニハ「ソ」側カ「ユシュケーウイチ」等ヲ出シ居ル關係上主トシテ酒勾參事官ヲシテ之ニ當ラシメ必要ノ場合ニハ貴使ト「リトウイノフ」又ハ「ストモニヤコフ」トノ間ニ折衝セラレタシ

三、換算率問題ニ關スル我方ノ態度ハ從來ノ往復電報等ニテ

大体御承知ノ通ナルカ具體的方針ハ追テ隨時電報ノ筈ナルニ付交渉ノ當初ニ於テハ先ツ「ソ」側ヨリ提案ヲ爲サシメ其ノ理由ヲ聞キタル上當方ヘ電報アリタン

三、今次交渉ニ於テ「ソ」側ハ豫テ申出ノ通り換算率引上ヲ要求スヘキモ我方ニ於テハ到底之ヲ應諾スル能ハス去リトテ交渉ヲ決裂セシムルニ於テハ我方ニ取りテモ不利ナル事態發生ノ虞アルニ付交渉ハ出來得ル限り之ヲ引延スコトニ精々御留意アリタシ

尙之カ爲ニハ換算率問題ヲ追テハ漁業條約改訂問題ト關

聯セシメ之ト一括商議スルコトトモナラハ好都合ト存セラル

237 昭和9年6月12日 在ソ連邦大田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

ルーブル換算率改訂交渉開催にあたり交渉中の現行換算率協定効力に関する我が方対処方針につき請訓

モスクワ 6月12日前發

本省 6月12日後着

第二八〇號

往電二七四號ニ關シ(換算率問題)

九日御訓令ニ接シタル處嘗テ「ソコルニコフ」カ商議開始方提議ト同時ニ現行率ハ廢止セラルルモノト認ムトノ趣旨ヲ論シタルコトモアリ旁直ニ本件商議ヲ開始スルニ於テハ或ハ將來紛議ヲ起スコトナキヤヲ惧レタルニ依リ兎ニ角十日酒勾<sup>(ウカ)</sup>ヲシテ極東部長代理ニ對シ本件訓令ニ接シタルモ本使カ一應「ストモニヤコフ」ト打合ヲ爲シタル上ニテ商議ヲ開始シ度旨申入レシメ置キ十一日「ス」ヲ往訪ノ上

相當議論起リ會談約二時間半ニ亘リタルカ其ノ要旨ハ右(一)ニ付先方ハ蘇側トシテハ「ユシケイヴィツチ」酒勾<sup>(ウカ)</sup>參事官數次ノ會商ニ依リ本件商議ノ結了ヲ見ルモノト豫想シタルニ日本側ハ大袈裟ノ組立ヲ爲シ殊ニ田中丸ヲモ參加セメントセラルハ意外ナリ外交的商議ニ外交官ナラサル者ヲ參加セシムルコトハ同意困難ナルニ付再考ヲ求メ度尤モ顧問トシテ援助セシメラルル場合ハ別問題ナリト述ヘタルニ依リ本使ハ我方トシテ本件ヲ重大視シ居ルハ勿論ニシテ殊ニ我法制經濟組織ハ蘇聯ノ夫ト大ニ其ノ趣ヲ異ニシ居

リ本件ノ如キ我當業者ノ利害ニ直接關係ヲ有スル事項ニ付テハ其ノ意嚮ヲ篤ト聽取參酌スルヲ得サル次第ナリト說キ結局先年漁業條約商議ノ際當業者代表ヲ出席セシメタルコトモアルヤニ承知シ居ル處今回モ大体同様ニ措置スルコト一案カト考へ居ルニ付此ノ點ニ付テハ更ニ攻究スルコトスヘシト應酬シ

〔〕ニ付先方ハ廣田大臣ト「ユ」大使トノ會談ニ依レハスル問題ヲ起スコトナクシテ商議ヲ開始シ得ヘキモノト解セラレ貴使ノ提言ハ貴使ノ希望ニ出テタルモノト認メサルヲ得サルカ之ヲ以テ商議開始ノ條件トセラル次第ナリヤト尋ネタルニ依リ本使ハ訓令ハ此ノ點ニ言及シ居ラサルモ右ハ餘リニ當然ノコトナルベク元來本年競賣ニ際シ紛議ヲ生セシハ此ノ點ニ關スル見解モ一大原因ナリシ次第ニシテ〔〕蘇側ハ競賣問題解決ニ臨ミ我當業者ノ支拂金ニ付前拂等ノ口實ヲ設ケサルコトニ同意セラレタルニ拘ラス現ニ最近浦潮ヨリノ來電ニ依レハ日魯會社ノ支拂金ニ對シ蘇側ハ何等カノ留保ヲ附セントスルニアラスヤト思ハル廉モアリ此ノ點ヲ明カニシ將來ニ誤解ヲ残ササル様措置ノ上ニアラサレハ商議ノ開始ニ應シ得ス右ハ立場ヲ代へ考ヘラルルナラ

ハ了解セラル所ナルヘシト答ヘ  
更ニ蘇側ニ於テハ此ノ點ニ關スル我見解ニ同意ナリヤ不同意ナリヤト質問セルニ先方ハ蘇側ノ見解ハ曩ニ「ソコルニコフ」カ貴使ニ述ヘタル通ニシテ自分トシテハ右ヲ變更スル權限ヲ與ヘラレ居ラストテ不同意ナル旨ヲ暗黙ニ答ヘタルヲ以テ本使ヨリ本來ナラハ此ノ點ニ關スル本國政府ノ見解ヲ明カニシタル上來訪スル筈ナリシモ蘇側カ商議開始ヲ取急キ居ラル模様ナリシニ依リ兎ニ角本使ノ見解ヲ告ケ蘇側カ了解ヲ與フルナラハ速ニ商議ヲ開始シ度考ナリシモ其ノ運ニ至ラサルニ付本日會談ノ要旨ヲ政府ニ報告シ其ノ回訓ヲ待チ更ニ會見スルコト致度シト述ヘタルニ先方ハ已ムヲ得サルヲ以テ數日間待ツコトスヘシト答ヘタリ右〔〕ノ點ニ付テハ訓令ニ明カナラサル處若シ的確ナル了解ヲ取付ケヌシテ本件商議ニ入ルトキハ今後前拂等ノ問題ヲ生スヘキヤニ思考セラルルニモ鑑ミ此ノ際如何ナル方針ニテ進ムヘキヤ何分ノ儀至急御回電アリタシ

238

昭和9年6月13日

広田外務大臣より  
在伊國佐藤大使、在米國齋藤大使、在  
ソ連邦大田大使他宛(電報)

## 北滿鉄道讓渡交渉および日ソ漁業交渉等の現状について

付記 作成日、作成局課不明

〔満洲國々境方面ニ於ケル紛爭事件雑件〕

本省 6月13日発

合第六六九號

一、北鐵讓渡交渉ハ四月二十六日再開後「ソ」側ヨリ價格日本紙幣二億圓案(「ソ」聯人退職金約三千萬圓ハ別ニ滿側負擔)ヲ提示シタルニ對シ滿側ハ價格一億圓案(前記退職金ハ「ソ」側負擔)ヲ出シ討議シタルモ「ソ」側ハ滿側提案ハ論議ノ基礎トスルニ足ラストテ新提案ノ提出ヲ迫リ滿側ハ自方案ノ合理的ナルコトヲ主張シテ讓ラサルニ依リ本大臣ヨリ「ソ」大使ニ對シ滿側ト同時ニ最後的提案ヲ爲スベキ旨説示シタル處其ノ後「ソ」側ヨリ更ニ一千萬圓值引ヲ申出テタルカ本大臣ハ斯ノ如キ妥結ノ望ナキ數字ヲ滿側ニ取次クモ無益ナリトテ更ニ再考ヲ求メ今日ニ及ヘリ以上ノ如ク双方ノ主張ニハ今尚相當ノ開キヲ存スルモ「ソ」側ニ於テモ尙讓歩スヘキ模様ニシテ雙方歩ミニヨリノ餘地アリト認メラルヲ以テ可成速ニ妥決ニ

導ク様折角盡力中ナリ

## 二、日露漁業關係

(1) 本年二月ノ漁區競賣ニ於テ「ソ」側ハ昭和六年ノ換算率(三十二錢五厘)協定ニ依ル邦人入札ヲ無効トセルモ

我方ノ嚴重ナル抗議ニ依リ之カ是正ヲ約シ屢次交渉ノ結果五月二十五日再競賣執行、邦人ハ希望漁區四十二ヲ落札セリ

(2) 右交渉ノ際「ソ」側ハ圓貨暴落ノ爲日本當業者カ多大ノ利益ヲ得タルニ反シ「ソ」側ハ多大ノ損害ヲ蒙レリトテ換算率ノ値上交渉ヲ提議シ我方ノ右應諾ヲ條件トシテ前記競賣是正ヲ申出タルモ我方ハ競賣ト換算率交渉トハ無關係ナリトテ之ヲ拒絕シタルカ現行換算率協定ニハ恒久的換算率ヲ定ムル爲商議ヲ行フヘキ旨ノ規定アルヲ以テ右ノ趣旨ニ依ル商議ヲ應諾スルコトナリ近ク莫斯科ニ於テ兩國政府間ニ交渉開始ノ筈  
(3) 昨年七月第二琴平丸カ堪察加東海岸ニ於テ領海内密漁ノ嫌疑ニ依リ拿捕セラレ船長ハ處罰セラレタル事件ニ關聯シ我驅逐艦ハ琴平丸ヲ拿捕シタル「ペシコフ」號ヲ抑留シタルカ「ソ」側ハ右帝國海軍ノ行動ニ付抗議

シ來リ爾後兩國間ニ折衝ヲ重ネ來リタル所最近ニ至リ

「ソ」側ハ琴平丸ニ對スル判決全部ヲ撤回スル代リニ

我方ハ「ペシコフ」號ヲ釋放スルコトニ話合成リ五月三十日函館ニ於テ同船ノ引渡ヲ了セリ

(2)昨年六月邦人漁船富美丸漁夫三名ハ堪察加陸岸ニ於テ「ゲ、ペ、ウ、」官憲ヨリ射殺セラレタル事件ハ犯人ノ嚴重處罰、賠償金六萬圓餘ニテ落着シタルカ將來此種不祥事件ノ發生ヲ防止スル爲關係官廳ト打合セ我方當業者ニ對シ嚴重取締ヲ爲スト共ニ「ソ」側ニ對シテモ防止方法ニ付種々具体的申入ヲ爲シタル所「ソ」側モ大体ニ於テ之ニ協力ノ態度ヲ示シ居リ旁々本年漁期ニ於テハ雙方共圓滿ナル關係保持ニ努メツツアリ

三、在哈府我總領事館ハ五月二十日未明何者カニ依リ發砲セラレタル爲哈府及莫斯科ニ於テ「ソ」側當局ニ嚴重抗議シタル處取調ノ結果右ハ總領事館附近ニ於テ警官ト醉漢トノ競合アリ數發發砲内一發同館ニ命中セルモノナル趣ニテ「ソ」側ハ右ニ付遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ責任者處罰ヲ言明シ問題ハ落着セリ

(付記)

滿洲國々境方面ニ於ケル紛爭事件雑件

二月二十三日ノ同江方面ニ於ケル日本飛行機射擊事件(別紙A参照)ニ付テハ大田大使ヨリ嚴重抗議スル所アリタルガ當時「ソコリニコフ」氏ヨリ満足ナル回答ヲ得サリシハ我方ニ於テ頗ル遺憾ニ存ジオル次第ナルガ最近更ニ「ソ」滿國境方面ノ安全ヲ危殆ナラシムル事件頻發シタルニ付本日ハ主トシテ此等ノ問題ヲ中心トシテ貴方ノ注意ヲ喚起セシン爲御來訪ヲ求メタル次第ナリ近次黑龍江航行中ノ滿洲國汽船ニ對スル「ソ」側發砲事件頻發シツツアリ我方ニ判明シオルモノ別紙ノ通五件ニ達セリ(別紙B参照)

「ソ」滿兩國ノ船舶ハ璣琿條約其他ニ依リ黑龍江ノ航行權ヲ認メラレオルニ不拘平穩ニ航行シツツアル此等船舶ニ對シ「ソ」側ガ最近發砲ヲ繰返スニ至リタル爲同江ニ於ケル滿洲國船舶ノ航行ノ安全ハ著シキ脅威ヲ受クルニ至レリ「ソ」政府ハ東洋ノ平和維持ニ付豫テヨリ關心ヲ示サレ右ハ我國モ全然同感ニシテ之ガ爲不斷ノ努力ヲ爲シツツアル處右諸事件ハ「ソ」政府ノ方針ト合致セサルモノニ非ズヤ本件ハ本來「ソ」滿兩國間ノ問題ナルモ我國トシテモ同方

面ノ平和維持ニ付テハ不斷ノ關心ヲ有スルコト御承知ノ通リナリ殊ニ五月十二日射擊セラレタル紀賢號ニハ恰モ日本軍隊搭乗シタルガ我方ノ隱忍自重ノ態度ニ依リ僥倖ニモ無事ナルヲ得タリト雖モ我方ニ於テ應射スルニ於テハ事態ノ重大性眞ニ憂フヘキモノアリタルナラム

若シ今後モ右ノ如キ「ソ」側ノ挑發的爲續發セハ我方ニ於テモ不得已自方ノ安全防衛ノ爲必要ナル行動ニ出テサルヲ得サルコトアルヘク就テハ貴方ニ於テモ十分此間ノ事情ヲ賢察シ出先官憲ニ對シ嚴重注意ヲ與ヘ此種事件ノ再發ヲ絶對ニ防止スル様御配慮ヲ得タシ

尙右ト關聯シテ此ノ際申上度キハ哈府總領事館ニ對シ最近發砲事件アリ(別紙C参照)右ニ付テハ哈府及莫斯科ニ於テ交渉セル處既ニ「ソ」政府ニ於テ遺憾ノ意ヲ表セラレ又責任者ノ處罰等ニ付テハ夫レ々措置セラレ居ル趣ニテ本件ニ就テハ貴方ノ誠意ハ之ヲ諒トスル次第ナルガ右事件ノ外我ガ在「ソ」大使館及領事館ニ對シ「ソ」側ニ於テハ此等公館ノ職務遂行並館員ノ生命身体ノ安全ニ付十分注意ヲ拂ヒオルヤヲ疑ハシムルモノアリ(別紙D、大使館「パトラー」壓迫事件、別紙E及F哈府及「プラゴエ」領事館員ニ對ス

(別紙A)

我飛行機被射擊事件

一、二月十二日同江上空ヲ飛行中ノ我飛行機ニ對シ「ソ」軍陣地ヨリ射擊スルモノアルヲ現認セリ

二、(イ)二月二十三日午前十一時頃黑龍江及松花江合流點附近ニ行動中ノ軍隊ト聯絡ノ爲黑龍江右岸滿洲國領土内ヲ西ヨリ東ニ飛行中ノ我飛行機一機ハ「ソ」軍部隊ノ爲機關銃射擊ヲ蒙リ其一彈同飛行機ノ操縱席ノ左側ニ命中シ操縱士ノ左肺部ニ擦過銃創ヲ與ヘタリ

(回) 本件ニ關シ大田大使ハ三月二日「ソコリニコフ」ヲ訪問嚴重抗議ヲナシ調査ノ上責任者ヲ嚴罰ニ處セラレ度キ旨要望シタル處「ソ」ハ一月二十三日「ソ」聯上空ヲ飛行セル日本飛行機ニ對シ警告的ニ發砲セル旨ノ報告ニ接シタル旨ヲ述ヘタルニ依リ大田大使ハ注意ヲ與フル爲ナラハ空砲ニテ事足ルニ拘ラス今回ノ事件ハ實彈ヲ用ヒシモノナルコト負傷者ヲ出セん事實ニ徵シ明白ナリト述ヘタル處「ス」ハ國際法上注意的空砲ノミナラス實彈ヲモ發射シ得ヘキモノト認ム右ハ「ソ」聯ノ西方國境ニ於テハ「ソ」側ニ於テ屢々實行シタル處ナリト述ヘタルカ同十七日重ネテ先方ノ回答ヲ督促シタル際ニハ「ソ」ハ警告的發砲ヲナセル情報アリタリトノ前言ヲ否定シ蘇側ハ本件ニ關シ何等責任ヲ負ハスト言張リ甚タ不誠意ナル態度ヲ示セリ

(別紙B)

## 滿洲國汽船被射擊事件

一、紀賢號事件

(イ) 五月十二日午後三時頃黒龍江ト松花江合流點ヨリ上流

十糠ノ地點ニ於テ日本軍一箇中隊乘船中ノ滿洲國汽船  
記<sup>記</sup>賢號蘇側ヨリ射擊ヲ受ケ満人水夫一名死亡、一名負傷シタル趣ナリ

(ロ) 五月十四日下村外交部特派員ハ在哈市蘇聯副領事「キスロフ」ヲ往訪嚴重抗議シ越ヘテ二十八日再ヒ「キ」ヲ訪問口頭ヲ以テ死傷者ニ對スル損害賠償金二万一千五百元ノ支拂、犯人ノ處罰、將來ノ保障及謝罪ノ四項ヲ要求シタル所「キ」ハ滿側申出ヲ莫斯科ニ取次クヘキコトヲ約セリ

十五日哈府發「ロスター」電

紀賢號ハ「ビジャ」河口地方ニ於テ蘇側河岸ニ接近シ同船乗組員ハ蘇側河岸竝ニ沿岸警備哨兵ノ配置地點ヲ公然撮影シ始メタルヲ以テ之ヲ發見セル哨兵ハ汽船ニ對シ停船ノ合圖ヲ爲シタルカ停船セサリシニ依リ哨兵ハ更ニ警告的空砲三發ヲ放チタルモ同船ハ尙蘇側河岸ニ沿ヒテ進行ヲ繼續セリ

二、陽湖號事件

五月二十八日午前五時半頃黒龍江遡航中ノ滿洲國定期船  
陽湖號ハ「ゼーヤ」河合流點附近ニ於テ赤兵ノ爲射擊セ

ラレ十發中六發命中セリ該船ハ射擊ヲ受クルヤ航路ヲ轉シ滿洲國岸ニ接近シテ進ミタルモ尙「ライター」二十數發射擊セラレ内十發命中セル趣ナリ尙射擊地點附近ノ滿洲國側ハ淺瀬ニシテ同船ノ取レル「コース」ニ依ルノ外ナク右「コース」ハ蘇岸ヨリ百米以内ニ接近シ居リ且蘇支協定水路ナリ<sup>(マ)</sup>

二十九日哈府「ロスター」電

廿七日「クレスト、ヴォスヴィゼンスカヤ」村ノ西方ニ於ケル國境哨兵ハ滿洲國々旗ヲ掲揚セル貨物船ガ曳船ヲ爲シ黒龍江ノ蘇側河岸ヨリ六米ノ距離ヲ遡航セルヲ發見シタルニ依リ二發警告的發砲ヲ爲セル結果同船ハ「コース」ヲ黒河ニ採リ更ニ遡航セリ翌二十八日再ヒ滿洲國々

リ

「ソ」聯砲艦ノ爲威嚇セラレタリ

右ニ對シ下村特派員ハ二二十四日口頭ヲ以テ在哈市「ソ」聯總領事ニ抗議シタリ

四、武振號事件 五月廿八日大黒河ニ向ケ航行中ノ滿洲國汽船武振號ハ璣琿下流大五家子村附近ニ於テ對岸ノ赤兵ヨリ停戰信號ヲ受ケタルモ航行ヲ繼續シタル處射擊セラレタリ

五、shang-bsing紹興號事件 五月廿八日黒河ヨリ漢河方面ニ向ヘル紹興號モ呼瑪附近ニ於テ赤兵ヨリ射擊セラレタリ

(別紙C)

在哈府我總領事館被射擊事件

旗ヲ掲ゲ曳船ヲ爲セル汽船カ蘇聯領タル「ゼーヤ」河口

ニ入り河岸ヨリ三十乃至三十五米ノ距離ヲ保チツツ一糠

遡航シタルガ同船ニハ船橋ニ据付ケアル寫真機ヨリ絶ヘス蘇聯河岸ヲ撮影セル者アリ哨兵ハ二發警告的發砲ヲナ

セルガ同船ハ警告ニ從ハサリシヲ以テ更ニ發砲セル處同船ハ直ニ「コース」ヲ換ヘ黒河ヘ向ヘリ

三、船名不詳 五月廿一日一滿洲國商船ハ璣琿附近ニ於テ

ノ豆鐵砲ヲ以テ惡戲シタルモノナリト辯解セリ

二、(イ)五月廿日午前二時半頃總領事館前面ヨリ同事務所ニ向

ケ何者カ發砲シ彈丸一箇ハ事務所二重窓ノ硝子一枚ニ  
一個宛ノ銳キ穿孔ヲ殘シテ貫通シ余力ヲ以テ受付室内  
中央ノ戸棚庇一個所ヲ擦過シ更ニ其ノ奥ノ本箱硝子戸

ノ棧ヲ貫通シ中ナル書籍ノ背皮ニ潛入セリ

(ロ)仍テ島田總領事ハ本件ヲ直チニ外務部ニ通告シタルモ

必要ノ措置ヲ取ラサリシニ付廿一日附書面ヲ以テ「メ

リニコフ」宛嚴重警告ヲナシ犯人ノ處罰及總領事保護

方ニ付申入ヲ爲スト共ニ今回當地官憲ガ直ニ必要ノ措

置ヲ取ラサリシコトニ付注意ヲ喚起シ更ニ廿三日「メ」  
ヲ往訪シタルニ「メ」ハ今回ノ事件ニ付公式ニ遺憾ノ  
意ヲ表シ犯人ヲ嚴罰スベキ旨ヲ答ヘタリ一方二十二日  
大田大使ハ本件ニ關シ「ストモニヤコフ」ヲ往訪嚴重  
警告スル所アリ

(別紙D)

在「ソ」大使館官邸「バトラー」壓迫ニ關スル件

在「ソ」大使館官邸「バトラー」「マルコウイチ」ナル者  
ハ「マセドニヤ」生レノ歸化「ソ」聯邦人ナルカ英語ヲ解

旨ヲ答ヘタリ  
二、仍テ島田總領事ハ本件ニ關シ書面ヲ以テ「ソ」側ノ態度  
ヲ難詰シタルニ先方ニ於テハ相當諒解シタルモノノ如ク  
差當リ總領事館ノ爲直屬醫ヲ任命スルコトニ決シタル趣  
ナリ

(別紙F)

武市領事館醫師問題

武市ニ於テハ「ゲ、ペ、ウ」ヲ憚リ一般住民ハ勿論醫師サ  
ヘモ我領事館ヘノ往診ニ應セサル趣ナリシニ付下村領事代  
理ハ同地外務事務官ニ對シ其不都合ヲ詰リタル處(四月上  
旬)同事務官ハ同地ニハ個人醫ナク全部保健課ノ勤務醫ナ  
ルヲ以テ往診ニハ同課ノ許可ヲ要スル處領事館ニハ其許可  
證ナカリシ爲往診ニ應セサリシモノナルヘク依テ保健課ト  
相談シ豫メ領事館ヘノ往診ニ應シ得ル醫師二名ヲ指定シ置  
クヘキ旨答ヘタルカ其後「ソ」側ハ領事館附近ニ一流格ノ  
醫師二三名居住シヲルニ拘ハラス街外レニ居住スルニ流格  
ノ醫師二名ヲ紹介シ來レリ

スル便宜上傭入レ無事勧キ居リシ處今回(二月中旬)「ゲ、  
ペ、ウ」ヨリ情報ヲ供給セストノ理由ニ依リ大使館内ニ勤  
務スルコトヲ禁止セラレ一箇月以内ニ立退ク様命セラレタ  
ル趣ニテ辭職セリ

右ニ關シ大使館ヨリ「ソ」聯外務人民委員部ノ注意ヲ喚起  
シタルニ取調ノ結果左ル事實ナキ旨回答越セリ

(別紙E)

在哈府總領事館醫師問題

一、一月十四日在哈府總領事館雇員松坂與太郎ノ長女(當四  
歳其ノ母ハ「ソ」聯邦市民ニシテ曰下國籍離脱手續中ナ  
ルモ「ソ」側官憲ハ容易ニ許サス)急病ノ爲醫師ノ來診  
ヲ求メタルカ四名ノ醫師ハ不在又ハ當直後睡眠中ノ理由  
ヲ以テ來ラス一名ハ來診ノ途中患者カ右雇員ノ家族ナル  
ヲ知ルヤ倉皇トシテ乘車ヲ這出テ總領事館ノ爲診療ヲ爲  
スヲ欲セストテ逃去レリ依テ折柄多數醫師ノ集會中ナル  
一學會二人ヲ派シ同所ニ居合ハシタル極東地方醫務部長  
ノ來診又ハ醫師ノ紹介ヲ求メタルニ右部長ハ之ヲ拒絶シ  
若シ急ヲ要スルニ於テハ外務部全權部ヲ經テ申出ツヘキ

239 昭和9年6月14日 広田外務大臣より  
在ソ連邦大田大使宛(電報)

ループル換算率改訂交渉開催中の現行換算率協定  
効力問題に対する我が方対処方針につき回訓

付記一 作成日、作成局課不明

「留換算率改訂會議經過要錄」

二

昭和十年二月二十一日発在ソ連邦酒匂臨時代  
理大使より廣田外務大臣宛電報第六八号

第十五回ループル換算率改訂會議の開催につ  
いて

本省 6月14日後9時15分発

第一九二號(至急、極祕)

貴電第二八〇號末段ニ關シ  
「現行換算率協定ノ效力問題ニ關スル當方意向ハ本電ニ  
以下記載ノ通ナル處換算率交渉開始前ニ強ヒテ本問題ニ  
付「ソ」側ト論議ヲ重ヌルモ容易ニ解決ニ到達セサルヘ  
キノミナラス先方ノ態度ヲ無用ニ硬化セシメ換算率交渉  
ヲ成ルヘク引延ハサントスル我方ノ方針ニモ齟齬ヲ來ス  
虞ナシトセス旁々本問題ハ換算率ノ交渉ニ入りタル後適

當ノ話合ヲツクルコトセラレ差支ナシ

三、交渉繼續中ハ現行率三十二錢五厘ニ依ル支拂ヲ妥當ナリ  
ト認ムルモ「ソ」側カ之ニ應セサル場合ニハ我方ヨリ本  
年度下半期以降ノ支拂ニ付今次換算率交渉ノ結果變更ア  
リタルトキハ之ニ依ルヘキ趣旨ノ言明ヲ爲シ從來通ノ率  
ニ依ル支拂ヲ爲スコトスルモ差支ナキ意向ナルニ付右  
御含置アリタシ

(付記一)

留換算率改訂會議經過要錄

第一回 昭和九年六月十七日

場所 莫斯科「ソ」聯邦外務部

出席者 日本側 酒匂(ゆき)參事官、島田書記官、清水書記生

「ソ」聯邦側「ユシケーウイチ」極東部長代理

「ローゼンブリュム」經濟部長

「ユ」、「三十一年取極以後圓價ハ暴落シ今日其ノ低下率ハ六  
割一六割五分ニ達ス右率ニ依レハ換算率ハ八十錢乃至八  
十二錢五厘ナルヘキモ日本當業者ノ漁獲物ノ一部ハ日本  
内地ニ於テ販賣セラレ日本内地ノ物價ハ左程騰貴シ居ラ

我國法律制度及經濟組織ハ「ソ」聯邦ト趣ヲ異ニシ當業  
者カ借區料低減ヲ望ムハ安キ留ヲ入手シ居リタルコトヲ  
前提トスル點ヲ認メ居レリ

「ロ」、「三十一年以后「アコ」債券ニ依リ即チ日本貨幣ニテ  
支拂ヒ留貨ノ相場ニ關係ナキニ不拘或ル漁區ノ借區料ノ  
昂騰セルハ之レ借區料昂騰カ留ノ價格ニ關係ナキヲ立證  
ス

ルヲ得ス故ニ當業者ノ來莫ヲ必要ト所以ニシテ本件ハ當  
業者ノ意向ヲ參酌スルヲ要シ「ソ」側ノ考フルカ如ク簡  
單ニ纏ルモノニアラス

第二回 昭和九年六月二十日

出席者、「ソ」側ニ日本課長「アイゼンシタツド」加ハ  
リタル外前回通

「ロ」、「アコ」債券換算率ノ改訂ニ關スルモノ  
ニシテ留ノ換算率ニ關スルモノニアラス一國ノ貨幣ノ相  
場ヲ外國ト協定スルカ如キコトハアリ得ヘカラス

(一)二十九年以後ノ借區料ノ昂騰ハ日舊會社ノ競爭者現レタ  
ル爲ニシテ留ノ下落ニ依ルモノニアラズ

(二)二十九年迄ハ日本當業者ハ暗黒相場ノ露貨ヲ入手シタル  
モ三十年夏以后右不能トナルヲ以テ便宜上「アコ」債券  
使用ヲ認メタルナリ

酒、(一)換算率協定ノ發端ハ圓對留ノ比率問題ニシテ「アコ」

債券ノ發行ハ「ソ」側ノ國內的措置ニ過キス而モ「アコ」  
債券ト云フモ留ヲ以テ表示セラレ「アコ」債券ニ對スル  
相場トハ實質上留ニ對スル相場ナリ

(二)經濟的競争ト云フモ留ノ下落ヲ前提トシテノコトニテ  
六割二分ナリ圓ノ下落率ハ如何ナル方法ヲ以テ判定スヘ

サルニ依リ七十五錢ヲ適當トス

酒、三十二年取極ハ日本ノ金輸出禁止後ニ締結セラレ當時  
既ニ圓價ハ相當下落シ居リシ筈ナルカ「ソ」側ハ當時ノ  
圓價ニテ三十二錢五厘ニ異議ナカリシモノト看做ス又同  
協定中「同一條件」云々ハ換算率ヲモ含ムモノト解ス  
「ロ」、「三十二年協定當時圓貨ノ下落ハ問題トスル程ニアラ  
ス「同一條件」トハ借區料ニ關スルモノニテ「アコ」債  
券換算率ヲ含マス

酒、二九年以後借區料ハ前年來ノ數倍ニ騰貴シ一面露貨モ  
暴落セル事實アリタルカ我方ハ三〇年夏浦潮鮮銀支店閉  
鎖ニ依リ斯カル下落セル露貨ヲ入手スル途ヲ失ヒ借區料  
ヲ減額スルカ圓對留ノ比率ヲ協定スルカノニ案ニ逢着セ  
ルニ「ソ」側ハ後者ヲ採り而モ下落ノ事實ヲ認メタルモ  
確タル算定ノ基礎ナカリシヲ以テ圓對留ノ「パリティ」  
ニ依ラス「アービトラリー」ニ且ツ政治的ニ現行率ヲ定  
メタリ

我國法律制度及經濟組織ハ「ソ」聯邦ト趣ヲ異ニシ當業  
者カ任意ニ外交交渉ニ依リ定マルヘキ率ニ同意スル場合  
ハ簡單ナルモ然ラサル場合ハ法制上正規ノ手續ヲ踏マサ  
前回通  
「トロヤノフスキ」及「カズロフスキ」モ日本當業  
者カ借區料低減ヲ望ムハ安キ留ヲ入手シ居リタルコトヲ  
前提トスル點ヲ認メ居レリ  
「ロ」、「三十一年以后「アコ」債券ニ依リ即チ日本貨幣ニテ  
支拂ヒ留貨ノ相場ニ關係ナキニ不拘或ル漁區ノ借區料ノ  
昂騰セルハ之レ借區料昂騰カ留ノ價格ニ關係ナキヲ立證  
ス  
酒、右ハ一留ニ付三十二錢五厘換ヲ以テ支拂得ルコトヲ前  
提トスル結果ナリ「ソ」側カ圓ノ下落ヲ三年八月頃ハ  
四割現今ハ六割乃至六割五分(六割五分乃至六割七分ト  
訂正ス)トスル根據如何  
(「ソ」側ハ本問ニ對スル回答ヲ第三回ニ約ス)  
第三回 昭和九年六月二十一日  
出席者 前回通  
「ロ」、圓ノ下落率ハ獨逸雜誌「コンユンクツール、フォル  
シュング」ニ依レハ三十二年八月一圓カ五十三錢—五十  
五錢、三十四年一月ニハ三十四錢—三十六錢ナリ  
酒、日本側取調ニ依レハ三二年八月五割一分、三四年一月  
六割二分ナリ圓ノ下落率ハ如何ナル方法ヲ以テ判定スヘ

キヤ又三十二年八月取極締結當時ノ圓ノ下落ハ問題トス

ル程ニアラストナス理由如何

「ロ」、圓下落率ハ圓ノ「パリティ」ニ依ル對金本位國貨幣相場ト金輸出禁止後ノ圓ノ對金本位國貨幣相場ヲ比較シテ定ム酒匂氏調ヘトノ差異ハ獨逸雜誌等ニ依リ裁定ス酒、近時ノ如ク國際貿易上ノ主要ナル數國カ金本位ヲ離脱セル場合ハ「パリティ」ノミヲ判定ノ基礎トナシ得ス當該國貨幣ノ國際爲替市場ニ於ケル地位ヲ基準トスルヲ要ス「アコ」カ日本ニ於テ圓ヲ消費セハ何等損失ナカラント、「ロ」、圓ハ弗ニ對シテハ左程低下セサルモ佛貨等金「プロツク」國ニ於ケル相場ニ比較スルヲ要ス圓ヲ日本テ使用スルハ尤モナルモ圓ノ對内、對外相場ハ大差アリ圓ヲ何國ニテ使フカハ「ソ」聯邦ノ自由ナリ

酒、近時各國ハ低爲替主義ヲ採リ該國貨幣ヲ最モ有利ナル市場ニ於テ使用セントスル趨勢ニアリ「アコ」カ日本ニ於テ圓ヲ使用スルハ世界經濟ノ大勢ニ順應スルモノナリ故ニ圓價カ半分トナリタリトテ現行換算率ヲ一倍ニスヘシトノ單純ナル議論ハ認メ難シ

第四回 昭和九年六月二十五日 出席者 前回通

酒、三一年ノ取極ニハ所謂「ゴールド、クローズ」(金約款)存セズ右ニ付テハ「トロヤノフスキ」前大使モ日本ノ金輸出禁止後三一年協定中ニハ單ニ三十二錢五厘トアリテ「金圓」ナル字句ナキ爲「ソ」側トシテ故障ヲ申立ツルコト困難ナリト語リタル趣又三二年取極ノ際「ソ」側カ三十二錢五厘ニ言及セサリシハ現ニ「ユ」及「ロ」氏カ認メラル所ナリ「同一條件」トハ借區條件ニ關スルモノナリト述ベラレタルモ賣買又ハ貸借契約ノ條件中價格力最モ重要ナルハ云フ迄モナシ「ソ」側カ當時現行換算率ニ關シ何等言及セサリシハ所謂沈默ノ承諾ヲ與ヘタルモノト見做ササルヲ得ズ三二年取極カ有效ナル間ハ日本當業者ハ三十二錢五厘替ニテ借區料等ヲ支拂ヘハ可ナル次第ナリ

右期間中圓カ騰貴セハ日本側ニ不利ニシテ圓カ下落セハ「ソ」側ノ損失トナルヘキコトハ二一年及二二年ノ協定ノ性質上已ムヲ得サル處ナリ又「ソ」側ハ受取勘定ノ處分ハ自由ナリト說カレタルカ右ハ須ク損失ヲ避クル方法ヲ採ルヘキナリ

「ロ」(エヌ)日本側ハ圓ノ下落ヲ否認スルヤ、下落シ居ルナラ

ハ其ノ程度如何(エヌ)現在ノ財政狀態ニ於テ日本側ハ三十二  
錢五厘ヲ公正トスルヤ

酒、圓ノ下落ハ認ムルモ算定困難ナリ圓對「チエルウオネツ」ノ相場モ存セサル爲ニ推定シ難シ現行率ハ「アービトラリー」且政治的ニ決定セラレタルヲ以テ公正ナリヤ否ヤモ算術的ニ云爲シ難シ三十二年ノ取極カ存續スル間ハ現行率ニテ満足セザルベカラズトナスハ日本側ハ引下ヲ希望スル故讓歩セルナリ

「ロ」、三一年協定ハ昭和九年三月「ソコルニコフ」カ大田大使ニ通告セシ時ヨリ廢棄セラレタリ

酒、國際協定ハ一方的ニ廢棄スルヲ得ス今回ノ交渉ハ三一年協定ノ改訂ニシテ同協定ヲ廢棄シ後新協定ヲ作ルモノ

ニアラス

「ロ」、(エヌ)三一年協定中ニ「ゴールド、クローズ」(金約款)

ナキコトニハ同意見ニシテ其ノ爲ニ本交渉ヲ見タル次第ナリ

(エヌ)「同一條件」ニハ勿論借區料ヲ含ミ居ルモ右借區料トハ競賣ニ於ケル入札額ニシテ換算率問題トハ別箇ナリ

(エヌ)三二年取極ノ際「ソ」側ガ換算率問題ヲ不問ニ附シタ

ルハ當時日本ノ財政々策ノ見極メ付カサリン爲ニテ沈默ハ承諾ヲ意味セズ  
四「チエルウオーネツ」相場ハ「イズヴエスチャ」紙上ニ發表セラレ居レリ  
五三一年協定ハ當時ノ經濟財政狀態ニ依リ締結セラレタルカ其後右狀態ハ大變化ヲ來シタルヲ以テ現在ノ狀態ニ適應セシムル爲現行率ノ改訂ヲ要スルナリ  
(エヌ)「アコ」ノ受取額ヲ全部日本ニ於テ使用スルカ如キハ事實上不可能ナリ

第五回 昭和九年六月二十八日 出席者前回通

酒、圓對「チエ」貨相場ハ何ヲ基礎トスルヤ又倫敦、紐育ニ於テ「チエ」貨ノ相場ノ立チ居ラサル理由如何

「ロ」、「チエ」貨相場ハ世界重要市場ヨリノ電報ヲ參照シ他國ノ貨幣カ「チエ」貨(金貨)ニ幾何ノ値段ヲ保ツヤヲ定ム「チエ」貨ヲ他國ト輸出入ヲ禁セラレタル「クローズト」貨幣ナルヲ以テ外國ニ於テ相場立タザルガ其ノ爲ニ國際價格ヲ有セスト云フニアラズ郵便電信料金、鐵道運賃ノ對外決済ハ國際價格ノ下ニ行ハル

酒、「チエ」貨ハ金兌換ノ建前ナルモ發行條例ニハ兌換ノ

時期ニ付キ更ニ法令ノ發布ヲ要シ結局國內ノ「チエ」貨ハ紙留ト認ム

「ロ」、「チエ」貨ハニシテニアラズ其値段ハ法律ニ依リ

定メラレ國際的ニ流通ス「ソ」聯邦ハ社會主義的機構ナ

ル爲國內ニ於テ「チエ」貨ハ閉鎖商店、「コオペラチー

ブ」、「バザール」等ニ依リ購買力相違ス唯國際的ニハ一

定ノ相場ヲ有ス對日勘定モ然ルガ日本漁業者ニハ特點ヲ<sup>(興カ)</sup>

與ヘ「アコ」債券ニ依ル支拂ヲ認メタリ「ソ」聯カ「チ

エ」貨ヲ輸出セサル限り日本當業者ハ外貨即チ圓ニテ支

拂ヒ漁獲物ノ代價モ圓貨ニテ受取り居ルナリ

「チエ」貨カ對内的ニ如何ナル性質ヲ有スルヤハ本商議

ニ關係ナシ

酒、「ソ」聯人カ「チエ」貨ニテ借區料ヲ支拂ヒ入札ヲ爲

シ居ル限り其ノ性質ヲ明ニスルノ要アリ「アコ」債券ハ

「チエ」貨即チ留ヲ以テ表示セラレ居リ三一年ノ協定ニ

依レハ一留ハ三十二錢五厘トアルカ右留トハ紙留ナリヤ

金留ナリヤ

「ロ」三一年協定ハ「アコ」債券ニ對シ圓貨ノ比率ヲ定メ

タルモノナリ「チエ」貨ノ對圓比率ヲ定メタルコトナシ

ニテ受取リ居リ右ハ「ソ」側ノ大讓歩ナリ留ニハ金錢ノ

特點ヲ受ケ居リ右ハ「ソ」側ノ大讓歩ナリ留ニハ金錢ノ

區別ナク「アコ」債券ノ表示スル留ハ債券留ナリ

酒、右「ソ」側ノ所論ヨリ推定セハ「アコ」債券ノ留ハ金

留ト同一物ナリトノ結論ニ達ス右ニ依リ「ソ」側ハ金留

ノ價格ハ公定相場ノ約三分ノ一弱ナルコトヲ認メタルコ

トトナリ圓ノ價格ハ右前提ノ下ニ算定シ得ヘキナリ

「ロ」、「アコ」債券ハ債券留ナル以上額面通りノ價格ニテ

賣渡ス要ナク「アコ」債券ヲ安價ニ賣渡シタリトテ留ノ

安價ヲ認メタル譯ニアラス

第七回 昭和九年七月四日

出席者 「アイゼンシタツド」缺席セル外前回通

「ロ」、「ソ」聯邦ニハ唯一無二ノ留(エディーヌイ留)存ス  
ルノミニテ國內的ニモ將又國際的ニモ一樣ナルカ實際ノ  
取引ニ當リテハ國內ニ於テ右留カ其儘通用シ對外的ニハ

「ユ」日本側カ質問的議論ノミ重ネラルコトハ交渉ノ遷延策ヲ執リ居ルモノナリトノ印象ヲ與フ廣田大臣ハ曩ニ

「ユ」大使ニ對シ二三日中ニ訓令スヘシト述ヘラレタル

カ右訓令ハ到着セルヤ又具体案ヲ提示アリタシ

酒、日本側トシテハ本件ノ關係方面大ナルニ鑑ミ本商議ヲ

重大視シ篤ト關係方面ト協議ノ要アリ且ツ「ソ」側ハ當

業者ノ事情ニ精通セル田中丸ノ列席ヲ主義上拒否セラレ

タル爲一層面倒トナレリ

具体案ヲ示スヘキ時期ハ何等保障スルコト困難ナリ本日

予ノ質問ニ付テハ日本ニ於テモ疑問ヲ有シ居ルニ付之等

ヲ明ニセサレハ具体的意見ヲ申越ササルヘシ

第六回 昭和九年七月二日 出席者前回通

酒、日本人ハ「ソ」聯人ト均等ノ地歩ニ置カルヘキ漁業條

約ノ規定アルニ付日本人カ借區料及稅金ヲ支拂フ場合ニ

ハ「ソ」聯人ト同様ノ貨幣ヲ以テスルコトヲ得ヘキ次第

ナルカ三十年夏以來日本人ハ「ソ」聯人ノ用ユル留入手

ノ途ヲ斷タレタル爲三一年ノ協定トナリ「アコ」債券ニ

表示セラルル留ニテ諸支拂ヲ爲スコトトナレリ從テ「ソ」

側カ其ノ留ノ性質及價值ヲ明ニスルニアラサレハ日本側

表示セラルル留ニテ諸支拂ヲ爲スコトトナレリ從テ「ソ」

側カ其ノ留ノ性質及價值ヲ明ニスルニアラサレハ日本側

アラス

酒、日本側トシテハ「ソ」聯ニ紙留實在シ其ノ購買力ハ金  
留ノ夫レヨリモ遙ニ低キコトヲ聲明ス留ハ唯一無二ト云  
フニ「債券留」アリトナスハ了解ニ苦ム又「アコ」債券  
ノ表示スル留ノ換算率ト云フモ借區料ノ高カ表示セラルル  
刷セラレタル紙幣ト雖モ金トシテ存在ヲ失ヒタルモノニ  
アラス

借區料及稅金ノ高ヲ表示スル留ハ金留ニアラス借區契約  
等ヲ見ルニ金留ト記載シアラス紙留ニテ支拂ヒ得ヘキモ  
ノト認ム從テ「アコ」債券ノ表示スル留モ金留ニアラス  
紙留ナリ此點ヲ明ニスル爲ニ漁業條約締結當時ノ經緯ヲ  
述ヘンニ當時ハ「ロ」氏ノ說ノ如ク留ハ國內ニモ國外ニ  
リシナリ其後金留紙留ノ間ニ差異ヲ生シ「ソ」聯人ノ納  
入スル留ハ紙留トナリ日本人モ紙留ヲ使用スルコトトナ

リ必然入札價格ノ昂騰ヲ見タリ次テ三一年協定成リ「ソ」人力使用スル紙留ノ代用トシテ「アコ」債券ヲ作りタルナリ故ニ前回「ロ」氏カ日本人カ國民待遇ヲ要求スルナラハ公定相場ノ金留ヲ使用スヘシト云ハレタルハ日本人ヲシテ數倍乃至數十倍ノ支拂ヲ爲サンムルコトヲ以テ國民待遇ナリト云フニ等シク承服シ得ス

三一年末日本ノ金輸出禁止當時及三二年ノ取極成立當時「ソ」側カ現行率改訂ヲ提議セサリシハ現行率ノ引下ヲ恐レタルコト一大原因ナラスヤト想像セラル「ソ」側カ今次現行率ノ改訂ヲ求メラル以上日本側トシテ條約ノ規定及留ノ使用價值低下ヲ理由トシテ現行率ノ引下ケヲ要求ス

「ロ」、「引下」云々ハ廣田大臣ヨリ「ユ」大使ニモ話シアリタルカ冗談ト解セリ今再ヒ斯カル提議アルハ意外ニシテ不愉快ナリ酒匂氏<sup>(名)</sup>ハ日本ノ圓ノ下落ヲ否定セサリシヲ以テ其ノ點ヨリ商議ハ進メラルヘキナリ

酒、日本側ニ於テモ意外且不愉快ナリ本商議ハ一種ノ専門委員會議ナレハ凡ユル方面ヨリ研究シ論議スヘキナリ日本ノ所言ヲ不愉快トセラルナラハ商議ヲ中止セラルヘ

シ日本側ハ豫メ引上ヲ前提トシテ商議ヲ開始スルコトニハ絶對反対シ來レリ

第八回 昭和九年七月七日 出席者前回通

「ロ」、「(一)條約締結當時ノ關係者ト審議セルモ本商議ハ「アコ」債券ノ換算率ニシテ留價ノ問題ニ何等關係ナシトノ結論ニ到達セリ

(一)法律的ニハ債券留ナルモノ存在セス「アコ」債券ヲ表示スル留カ存在ス日本側ハ弗又ハ馬克ニテ表示セラル證券カ夫々弗又ハ馬克ニテ額面以下ニ評價セラルニ反シ「アコ」債券ハ留カ圓ニテ低率ニ評價セラレタリト說カレタルモ「アコ」債券三十二錢五厘トハ「アコ」債券ノ賣却率三三・五哥ニ對スル三十二錢五厘ト云フヘキ處ヲ中間ノ字句ヲ省略セルモノナリ

(二)條約締結當時豫想セサリシ金、紙ノ開キヲ生シタリトスルハ誤リナリ借區料ノ昂騰ハ經濟競爭ノ爲ニシテ留ノ下落ニ基クモノニアラス

四日本人ハ三〇年迄「コントラバンド」ノ「チエ」貨ヲ使用セリ三一年協定ニテ「アコ」債券ノ便法ヲ認メ國民待遇以上ノ有利ナル待遇ヲ認メタルモノニシテ國民

待遇ノ問題ハ三一年協定成立ト共ニ解消セリ國民待遇ハ國內法ヲ無視シテ存在シ得サルカ日本漁業者ハ國內ニ於ケル「ソ」聯人ノ如ク合法的收入ニヨル留ヲ入手シ居ラサルニ付國外ニ於ケル「ソ」聯人ト同様ノ取扱ヲ受ケ外貨ヲ以テ公定相場ニ依リ留ヲ入手セサルヘカラス

五三一年ノ協定ハ「ソ」側ニ利益ナカリシニモアラサルヲ以テ成立セルモ其後圓下落シ損失ニ堪エサルヲ以テ今回ノ商議ヲ必要トスル次第ナリ

(一)「アコ」債券ノ表示スル留ハ借區料ノ高ヲ表示スルモノニアラストノ「ソ」側ノ結論ナルカ日本側トシテハ「アコ」債券ノ一留ハ借區料ノ一留ニ完全ニ充當セラルルヲ以テ三十二錢五厘ハ「アコ」債券ノ一留トモ借區料ノ一留トモ同價ナル故「アコ」債券換算率問題ハ留換算率問題ナリ

(二)借區料ノ昂騰ハ經濟競爭ナリト云フモ經濟競爭ハ採算ヲ無視シテ行ハレス紙留カ下落セシ爲借區料昂騰セルナリ

(三)「ソ」側ハ朝鮮銀行帳簿等ニ依リ當時カ二十錢乃至四ナリ

(一)「ゴスバンク」發行雜誌一九三一年四月號ニハ自由市場ニ於ケル法定外ノ留相場ハ「ソ」聯ノ計畫經濟ノ財政ニ大ナル影響ヲ與ヘズト記載シアリ、元來不換紙幣タル

「チエ」貨及留ノ發行高ハ「ソ」聯當局ノ發表ニ依レハ  
 二五年九億二千七百萬留、三一年四十二億五千五百萬留、  
 三四六年六十八億六千百萬留トナリ居ル事實及工業建設ニ  
 巨費ヲ投シ一般物資不足ノ事態ニ徵スレハ「ソ」聯邦カ  
 社會主義機構ヲ有スルニセヨ貨幣制度ヲ存スル以上不換  
 紙幣カ名目貨幣タル金留ニ比シ低キ購買力ヲ有シ物價カ  
 騰貴スルハ當然ナリ

留力唯一無二ナリトハ擬制ニ過キス尤モ「ロ」氏モ之ヲ  
 使用スル人及場所ニ依リテ其購買力ヲ異ニスト云ハレ事  
 實上金紙ノ差ヲ認メ居レリ

(二)留問題ハ本商議ニ關係アリ「アコ」債券ノ換算率ハ留建  
 ノ借區料ヲ日本貨ニテ支拂フ場合ヲ定メタルモノナレハ  
 ナリ

(三)假ニ「ロ」氏ノ說ニ從フモ借區料ノ支拂ニ充當スヘキ留  
 トシテ「ソ」側ハ三十二哥半ニ同意セルコトナル「ア  
 コ」債券ハ額面ノ約三分ノ一ノ價格ニテ賣却セラルルカ  
 右一留ニ對シ「ソ」側ハ五十二錢五厘日本側ハ二十錢ヲ  
 唱ヘ現行率ニ歩ミ寄リタルカ右ハ實質ニ於テ圓ノ換算率  
 ヲ定メタル譯ナリ

四二九年ノ借區料ノ昂騰ハ留ノ下落ニ依ルモノナルカ日本  
 人ハ斯ク下落セル留ヲ入手スル途ヲ有セシナリ三二二年後  
 借區料ノ昂騰セルハ經濟競爭ノ爲ナリトスルモ該競爭ノ  
 根本ヲ爲セシモノハ採算ナリ三十一年末金輸出禁止トナ  
 リタル結果日本人ノ或者ハ圓貨ヲ比較的安ク入手シ三十  
 一年ヨリ高ク入札スルモ採算可能ナリシ次第ナリ留ノ下  
 落カ原因ナリトセハ現在ノ借區料ハ數倍乃至十數倍トナ  
 ルヘシト說カルルモ「ソ」聯邦カ個人ノ貿易及爲替制度  
 ヲ認メ居リシナラバ「ソ」側ノ云フカ如キ狀態ヲ實現ス  
 ヘシト認ム

(五)條約ノ「均等待遇」ハ日本人力「ソ」聯邦内ノ「ソ」聯  
 人ニ比シ不利益ナル待遇ヲ受ケサルノ義ニシテ三一年ノ  
 協定ハ右均等待遇ヲ實質上ニ於テ認メ條約ト「ソ」聯邦  
 法制トノ調和ヲ計リシモノト解ス日本人ハ公定相場ニ依  
 ルヘシト云フカ如キハ國際正義ニ反ス

(六)私見(特ニ酒匂<sup>(イシ)</sup>參事官ノ私見ト述ブ)トシテ留ニ金紙ノ差  
 ナシ、本件換算率ハ留ニ關係ナシ、國民待遇カ國外「ソ」  
 聯人トノ均等待遇ナリ等ノ「ソ」側ノ主張ハ日本ノ輿論  
 ハ承服セス寧ロ條約改正ノ際迄双方ノ主張ヲ留保スルコ  
 ル勘定ナリ

トトシ現行率ヲ存續スルコト賢明ナリト思考ス

第十回 昭和九年七月十九日 出席者前回通り  
 「ロ」<sup>(イシ)</sup>「ゴスパンク」雜誌ハ三一年ノモノニシテ現下ノ  
 事態ニ適合セズ

(一)一國カ閉鎖貨幣制度ヲ採ル以上國外ニ於テ該國ノ  
 貨幣カ下落スルハ當然ナリ(此點日本側ヨリ言及  
 セシコトナシ)又留カ國內ニ於テ下落スルハ計畫  
 經濟ニ依ルモノニシテ本件交渉ニ關係ナシ

(二)「アコ」債券ノ現行率ハ日本人カ不法ニ留ヲ入手  
 シ借區料ヲ人工的ニ上ケタル事實アリシヲ以テ此  
 點ヲ調整スル趣旨ニ依リテ定マレリ

四三二年以降借區料ノ上リタルハ借區料カ留ノ下落  
 又ハ物價昂騰ニ關係ナキ證據ナリ

(五)三二年以降借區料ノ昂騰ヲ以テ圓ノ下落ニ依ルモ  
 ノトナス酒匂<sup>(イシ)</sup>參事官ノ言ハ日本側カ圓ノ下落ヲ認  
 メタル證據ナリ

(六)國民待遇ニ付日本人カ「ソ」聯邦内ニ營業セサル  
 以上「ソ」聯邦外ノ「ソ」聯人ト同様ノ地位ニ置  
 カルヘキハ當然ナリト考フ

第一回 昭和九年八月十日 出席者前回通り  
 酒、獨逸雜誌ノ記事ニ依レハ一金留ハ四十留乃至六十留ニ  
 相當シ一紙幣留ハ日本貨ノ三錢乃至四錢ニ相當スル旨指  
 握シ條約ノ均等待遇及「ソ」聯ノ法制ニ鑑ミ現行率ノ引  
 下ヲ希望ス又條約中ノ均等待遇ノ規定ハ該條約締結後發  
 布セラレタル「チエ」貨輸出入禁止ニ關スル法令ニ依リ  
 事實上死文トナルカ右ヲ聞カハ日本輿論ハ沸騰スヘシ  
 「ロ」<sup>(イシ)</sup>本件商議十回以上ニ涉ルモ具体案ヲ出ササルハ遺憾



地方ノ試掘作業ヲ行ヒ來リタル次第ナルカ最近「オハ」鑑區ハ幾分行詰リノ徵アリ且試掘地域一千平方露里ニ亘ル試掘期限ノ終了期モ目前ニ迫リ居リ加之本年度ハ我商工省ヨリ試掘助成金トシテ從來ノ約七倍ニ達スル百二十萬圓ノ巨額ヲ支給セラレタルニ鑑ミ石油會社ニ於テハ本年前記助成金ヲ合セ約三百萬圓ノ巨費ヲ投シテ「エハビ」「ボロマイ」南北「バターシン」及「カタングリー」ノ各試掘鑑區ニ於ケル試掘ニ全力ヲ傾注スルコト、ナリタル次第ハ本年五月五日附本機密第四七號(石油會社ノ本年度探掘試掘一般計畫概要報告ノ件)拙信報告ノ通ナリ

從テ該地方ニハ本夏左記ノ如ク多數ノ日「ソ」勞働者核行スル筈ニテ爲ニ從來ニ比シ一層技術上及勞働上ノ大少紛議頻發スヘク豫想セラレ居リ又之等多數ノ邦人勞働者ニ對スル「ソ」側職業組合方面ヨリノ赤化宣傳モ相當懸念セラレ居レリ

|          |       |      |       |
|----------|-------|------|-------|
| 「エハビ」支所  | 邦人労働者 | 一九七名 | 計三八四名 |
|          | 「ソ」人  | 一八七名 |       |
|          | 邦人    | 一一四名 |       |
| 「ボロマイ」支所 | 「ソ」人  | 一四〇名 | 計二五四名 |

尙「カタングリー」ノ採掘鑑區ニ於テハ本年ヨリ採油ヲモ開始シ居レル處同地ハ從來ノ試掘ノ結果ニ徵シ第二ノ「オハ」トシテ有望視セラレ居ル有様ナリ

他面「ソ」側石油「トラスト」モ前記地方ニ於テ相當試掘及地質調査等ヲ實施シ居レル趣ナリ

翻テ當館ニ於テハ前任者在勤當時ヨリ館員トシテ前記地方ヲ視察シタル者一名モ無之從テ同地方ノ實情殆ト不明ナル有様ナルニ鑑ミ此際前記各鑑區ニ於テハ我石油事業ノ視察ヲ初メ在留邦人ノ生活狀態及之等邦人勞働者ニ對スル「ソ」側ノ赤化宣傳狀況並ニ「ソ」側石油「トラスト」ノ事業振等調査ノ爲館務ノ都合ヲ見計ヒ出來得レハ交通便利ナル航海期中ニ若シ右不可能ノ場合ハ冬季間ニ一度該地方ニ出張致シタキニ付右御許可方御説議相仰度此段稟請申進ス

茲ニ豫テ依頼シ置キタル首題ノ報告書今般當地石油會社鑑業所ヨリ提出アリタルニ付右寫何等御参考迄別紙ノ通報告申進ス

本信寫送付先 在「ソ」聯邦 大田大使  
在亞港 緒方總領事

(別紙)

北樺太石油株式會社一九三四年度(一九三四  
年四月—一九三五年三月)採掘試掘一般計畫

第一章採掘並ニ其附帶作業  
(一)「オハ」油田(北「オハ」ヲ含ム)  
一、新掘鑿井  
綱式四層井  
口式七層井  
五坑  
五坑(内北「オハ」二  
坑ヲ含ム)

我石油利權企業ニ於テハ事業ノ本據タル「オハ」ノ採油モ最近幾分行詰リノ兆アリ且試掘地域一千平方露里ニ亘ル試掘期限ノ終了期モ切迫シ居リ加之本年ハ我帝國ノ燃料問題重視ニ關聯シ商工省ヨリノ北樺太石油會社ニ對スル助成金モ從來ノ約七倍タル百二十萬圓ノ巨額ニ達シタルヲ以テ本年度ハ主トシテ各試掘地域ノ試掘ニ全力ヲ傾注スルコト、

計

## 十二坑井

二、繰越坑井(前年度ヨリ繰越サレタル未着手坑井)

「スター」式三層井

二坑

## 三、掘下坑井

追掘ノ可能存シ採油量微少ナル三坑井ノ掘下ヲナス

三層井ヨリ四層井へ 二坑

七層井ヨリ八層井へ 一坑

計

## 四、豫備井

採油計畫ヲ全フセンカ爲臨機ノ處置ニ應セシムル爲左記ノ豫備井ヲ計畫ス

綱式四層井 一坑

口式七層井 二坑

口式十三層井 三坑

計

六坑井

## 五、採油豫定量

總採油豫定量

燃料消費量

差引純採油豫定量

一八三、四〇〇噸  
二七、〇〇〇噸  
一五六、四〇〇噸宿舎及礦場地帶便所 小型五  
酒保「インクライン」改造  
酒保「パン」燒釜增設  
俱樂部(三ヶ年計畫)

宿舎地帶及礦場内排水路

## 六、一九三四年度夏期原油搬出豫定量

一九三四年度採油豫定量 一五六、四〇〇噸  
「トレースト」ヨリ購入ノ原油豫定量 一〇三、〇〇〇噸

(前渡金利子償却ノ原油ヲ含ム) 一九三四年度航海期搬出豫定量 二八〇、〇〇〇噸

一九三四年度末貯油豫定量 七六、六〇〇噸

七、宿舎建設並ニ其他ノ建設計畫 軌道(新掘坑井ニ至ルモノ)

坑井櫓 十二基  
冷藏庫 一棟  
穴藏 一棟

「アンモニア」酸素瓦斯瓶倉庫 一棟

便所 一棟

六基

(一)南北「バターシン」(支所名稱未定)  
 一、北「バターシン」第一區第一號井前年度豫定ニヨリ  
 引續キ作業進行中開坑豫定一九年九月一日  
 一、南「バターシン」第一區第一號井新規試掘  
 挖鑿樣式「コンビネーション」式豫定深度八〇〇米  
 開坑豫定一十年十月一日  
 一、同右第二區第一號井新規試掘  
 挖鑿樣式「コンビネーション」式豫定深度  
 一、二〇〇米

以上坑井作業ニ附隨スル試掘標準型各建設物ノ外之ニ通  
 スル道路トシテ「チャイオ」舊礦場北「バターシン」一  
 區一號井ニ至ル土道並ニ「チャイオ」舊礦場中繼棧橋間

六、一九三四年度夏期原油搬出豫定量  
 一九三四年度採油豫定量 一五六、四〇〇噸  
 「トレースト」ヨリ購入ノ原油豫定量 一〇三、〇〇〇噸  
 (前渡金利子償却ノ原油ヲ含ム) 一九三四年度航海期搬出豫定量 二八〇、〇〇〇噸  
 一九三四年度末貯油豫定量 七六、六〇〇噸  
 七、宿舎建設並ニ其他ノ建設計畫 軌道(新掘坑井ニ至ルモノ)

坑井櫓 一二基  
 冷藏庫 一棟  
 穴藏 一棟

「アンモニア」酸素瓦斯瓶倉庫 一棟

便所 一棟

六基

八、「オハ」三角測量アリ

(二)「カタングリ」支所  
 一、新掘坑井  
 綱式(最高深度九〇一—二一〇米) 六坑井

二、採油豫定量  
 總採油豫定量  
 燃料消費量  
 差引純採油豫定量

三、一九三四年度末貯油豫定量  
 土道幹線

軌道  
 坑井櫓  
 「トラスコン」建給水所  
 「トラスコン」建汽罐場  
 給水及送油本線  
 八戸建  
 季節「バラツク」  
 燃料倉庫

外ニ燃料用鐵槽一基 「チャイオ」採掘礦區内

同 上 一基 北「バターシン」一區内

並ニ各連絡有線電話

一、劃定作業第一區、第二區

(1) 「ポロマイ」支所

掘鑿様式「コンビネーション」式豫定深度八〇〇米

開坑豫定一十年五月一日

一、同上第三區第一號井(中止中ノモノ)

掘鑿様式「コンビネーション」式豫定深度八〇〇米

開坑豫定一九年九月一日

以上坑井作業ニ附隨スル諸建設ハ第一區第三區ニ相當ス

ルヲ以テ之ヲ流用スルモノ多數アリ不足分ニ對シ補足的

ニ新設豫定

一、中繼軌道延長約二哩

(2) 「エハビ」支所

一、第一區第二號井新規試掘

掘鑿様式「コンビネーション」式豫定深度七〇〇米

開坑豫定一九年十二月一日

241 昭和9年9月8日 在ハイラル米内山(庸夫)領事より  
機密第二一五號  
外蒙騎兵による邦人拉致事件の解決について  
(9月18日接受)

昭和九年九月八日

在海拉爾

領事 米内山 庸夫(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

外蒙國境拉致邦人釋放ニ關スル件

昭和九年九月七日附機密第一〇八號在滿大使宛

公信寫別紙送附ス

(別 紙)

機密第一〇八號

昭和九年九月七日

在海拉爾

領事 米内山 庸夫

在 滿

特命全權大使 菱刈 隆殿

外蒙國境拉致邦人釋放ニ關スル件

八月七日「ボイル」湖地方國境附近ニ於テ外蒙騎兵ノ爲メ  
拉致セラレタル邦人川澄愛之助石崎梅次郎及滿人一名釋放  
歸來ノ件ニ關シテハ不取敢電報ヲ以テ及報告置タルガ尙ホ

一、第二區第一號井繼續試掘

一、第三區第一號井繼續準備ノ上九年九月一日開坑豫定  
豫定深度一八〇〇米

一、第四區第一號井新規試掘

掘鑿様式「コンビネーション」式豫定深度七〇〇米

開坑豫定一十年六月一日

掘鑿様式「コンビネーション」式豫定深度九〇〇米

豫定

一、劃定作業第四區

四、「カタングリー」支所

一、第五區第一號井繼續試掘

一、第三區第二號井新規試掘

掘鑿様式「コンビネーション」式豫定深度九〇〇米

開坑豫定一十年六月一日

~~~~~

昭和9年9月8日 在ハイラル米内山(庸夫)領事より

機密第二一五號

外蒙騎兵による邦人拉致事件の解決について

(9月18日接受)

同人等ノ談ヲ綜合スルニ同人等ハ地質調査ノ爲メ「ボイル」
湖畔ニ滯在中折カラ巡邏ノ外蒙騎兵ノ爲メ發見威嚇發砲セ
ラレ當時現場ニアリタル一行中ノ松平及露人一名滿人二名
ハ身ノ丈程ノ高サノ草叢ヲ利用シ逃走シタルモ川澄石崎及
滿人一名ハ逃走抵抗共ニ不可能ナルヲ感ジ携帶ノ拳銃及諸
調査書類等ヲ草叢ノ中ニ放棄隠匿シ「ホールド、アツプ」
シツツ外蒙兵ノ爲メニ捕ヘラレタリ
當時川澄等ヲ捕縛セシ外蒙騎兵ハ四騎ニシテ直ニ之ヲ最寄
ノ屯所ニ連レ行キ一應訊問ノ後更ニ眼隠シヲナサシメ該騎
兵隊ノ本部トモ認メラルル兵營ニ拉致收容セサレ同所二十
二日マデ監禁セラレタリ
外蒙兵ハ捕縛セシ理由トシテ無斷無護照越境侵入ノ不法ヲ
訊リタル由ナルガ川澄等ハ滿洲國內ニテハ護照ナシテ旅行
シ得ルコト並ニ同人等滯在ノ地點ハ滿洲國領内ナルヲ以テ
旅行滯在スルコト何等不可ナカルベシト辯明シタルニ外蒙
兵ハ該地ハ外蒙共和國內ノ「ハルハ」地方ナルコトヲ強辯
シタルモ滿洲國內ニテ無護照ニテ旅行出來ルト云フコトト
極メテ驚異ノ面持ヲ以テ聞キシ様子ナリシトノコトナリ
外蒙兵ハ川澄等一行ニ軍事上ノ關係アルカ否カハ極メテ注

意シ其ノ點ニツキ特ニ訊問シ持物等ヲ詳細検査セシモ前述ノ如ク拳銃及調書等ハイチ早ク放棄シ身ノ廻リニ何等彼等ヲシテ不審ヲ懷カシムルモノナカリシヲ以テ漸次軍事探偵取扱ハレ時ニ脅迫威嚇ナドセラレシモ十二日ニ至リ外蒙兵ノ態度一變シ極メテ穩和的トナリ十二日ニハ同地出發桑貝子ニ護送セラレ同地ニ於テ蘇聯人ニ一應訊問セラレタルモ何レカト云ヘバ單ニ形式的ノ訊問ニテ格別ノコトモナク桑貝子ヨリ更ニ蘇聯人ニ護送セラレ途中一泊十六日庫倫ニ到着シ同地監獄ニ收容セラレタリ

庫倫ニ於テ再ビ蘇聯人ヨリ訊問セラレタルモ同ジク形式的ニシテ格別ノコトハナク其ノ態度訊問振り極メテ穩健ナリシ趣ナリ庫倫ニ於テ監獄ニ收容セラレント雖該監獄ハ新式ニシテ設備ヨク冷熱兩水ノ自由ニ出ヅル新式浴場ナドモアリ新ラシキシヤツナドモ供給セラレ食物等モ特ニ相當ノ露西亞料理ヲ提供シ世話人トシテ特ニ上級ノモノヲ置キ特別ニ優待セル趣ナリ

二十一日頃釋放スルガ何處ニ送リ届クベキヤト尋ネラレシ

庫倫ヨリ察哈爾國境往復並庫倫市街通過ノ際及桑貝子ヘ向

フ途中モ何等自動車ヲ隠蔽セズ幌ヲ開ケ放シテ各所ヲ自由ニ展望セシメシ趣ナリ庫倫ヨリノ歸途ニハ滿洲國領ニ入ルマデノ必要ナル各種ノ食糧ヲ豊富ニ供給シタリ

當初收容セラレタル國境ノ蒙古軍騎兵本部所在地ニ到着後

同所ヨリ人ヲ派遣シテ滿洲國內新巴爾虎左翼旗長ト聯絡シ

同旗長ヨリ引取人ヲ國境「オーボ」所在地マデ派遣セシメ同地ニ於テ完全ニ引渡フ了シタリ

引渡シニ際シ先キニ同地ニ於テ沒收セシ一行ノ所有品ヲ全部返還スルコトトシ一部分紛失シタルモノノ外ハ全部返還シタル趣ナリ

同一行ハカクシテ滿洲國內ニ入りタル後海拉爾ヨリ迎ヘニ赴キタル興安警察局自動車ニ塔^塔乗シ九月五日無事海拉爾ニ到着セリ

同人等ノ談ニ據レバ

(イ)最近北鐵交渉ノ頓挫並ニ北鐵東部線事件關係蘇聯人逮捕等ニ關聯シ或ハ報復的ニ虐待セラルルカモ知レズ又釋放セ

ラルルモノトシテモ相當永引クモノト想像セラレシニモ拘

ラズ拉致セラレシ當初ヲ除キ八月十二日ヨリ愈々引渡サル、マデ可ナリ優待セラレ其ノ間接觸セン蘇聯人並ニ蒙古士

ヲ以テ川澄等ハ「ハロン・アルシャン」ニ護送セラレタキ旨ヲ希望シタルニ愈々二十二日釋放セラレ新式ノフォード車二臺ヲ以テ蘇聯人附添ヒ庫倫ヲ出發シタルガ路ヲ西南ニ

取り「ハロン・アルシャン」行キトシテハ其ノ方向ニ不審アリシヲ以テ之ヲ尋ねシニ先方ハ何レモ「ハロン・アルシャン」ナル地名ヲ分ラヌモノ如ク兔ニ角張家口日本領事ニ引渡ス目的ヲ以テ察哈爾國境ニ向ヒ進ミツツアリ且察哈爾側支那當局トモ日本領事ニ引渡スコトノ斡旋方交渉シツアル趣判明セシヲ以テ川澄等ハ一ハ支那當局ニ引渡サルノ不安モアリ又假リニ張家口日本領事館ニ無事到着セリトシテモ其レヨリ更ニ哈爾賓ニ來ルコトハ容易ナラヌ長道中ナルヲ以テ川澄等ハ張家口行キヲ中止シ兔ニ角「ハイラル」方面へ送致サレンコトヲ希望シタルニ蘇聯人快ク之ヲ容レ直ニ庫倫ニ引返シタリ

右察哈爾國境往復ニ三、四日ヲ費シ更ニ庫倫ニ數日滯在ノ後愈々當初拉致セラレタル原地ニ護送シ滿洲國側ニ引渡スコトトナリ二十八日庫倫ヲ出發往路ト同ジク桑貝子ヲ經テ「ボイル」湖國境方面ニ向ヒタリ

庫倫ヨリ察哈爾國境往復並庫倫市街通過ノ際及桑貝子ヘ向官等モ其ノ態度親シムベキモノアリシ趣ナリ之等ノ優遇並ニ比較的迅速ニシテ突然ナル釋放ハ無論蘇聯上司ノ意図ニ基ツクモノナルベク之ニ據ツテ蘇聯側ノ日本及滿洲國ニ對スル態度ノ一面モ窺ハレ興味アルコトト認メラル

(ロ)今回ノ事件ニ於テ本件發生地方國境線ノ不明瞭ナルコトハ明瞭ニ看取セラレ現ニ同人等拉致セラレシトキト釋放引渡サレシトキトハ外蒙古騎兵ノ屯所ノ其ノ位置ヲ異ニシ著シク東方ニ移動シ居リシ由ナリ地圖面ト實際ノ國境トハ甚シク相違アリ且ツソノ實際ノ國境ト稱スルモ外蒙側ノ目指ストコロト滿洲國側蒙古人ノ指示スルトコロトハ亦甚シク相違アリ要スルニ地形的ニモ人爲的ニモ何等國境線ヲ割スベキモノナク只ダ一面ノ平草原ニシテ且ツ滿洲國側ニハ何等ノ屯所モ巡邏制ノ執行モナキ爲自然外蒙兵ノ屯所巡邏ニ依リ隨意ニ國境線ヲ定メラル、狀態ナリトノコトナリコノ西部國境線ノ劃定ハ今後慎重考慮ヲ要スル一問題ナルベシ

何等御参考迄ニ申添フ

右報告ス

本信寫送付先 外務大臣 哈爾賓總領事 齊々哈爾領事

滿洲里領事

(満鐵情報)

ソ連側による在満白系露人と日本側との離間

策動について

(接受日不明)
八機密第五四五號

昭和九年九月二十一日

在齊々哈爾

領事 内田 五郎〔印〕

外務大臣 廣田 弘毅殿

在滿菱刈大使宛 九月二十一日附 機密第五四五號

左記件名公信寫送附ス

件名 蘇聯側ノ白系露人ト日本トノ離間

策動ニ關スル件

機密第五四五號

昭和九年九月二十一日

在齊々哈爾

領事 内田 五郎

在滿洲國

蘇聯政府ハ在満白系露人ノ大同團結ト彼等ノ日本接近ヲ極度ニ怖レ從來凡ユル手段方法ヲ講シテ離間ヲ策シツツアリ最近ニ於テハ「モスクワ」政府ハ蘇聯國內ノミナラス國外居住白系分子ニ對シテモ廣範ナル特赦令ヲ發布シ白系分子ノ歸國ヲ歡迎シツツアリトノ「デマ」ヲ流布セシメ居レルカ今回東京會議ノ決裂満洲國官憲ノ北鐵内共產黨積極分子豫想シ白系ノ對日接近防止工作ヲ積極的ニ行フヘク「モスクワ」ヨリ大連蘇聯共產黨機關ニ左ノ訓令アリ尙宣傳工作費トシテ五千米弗送付來レリ

「蘇聯政權ヲ顛覆シ同時ニ日本ノ侵略防止ヲ目的トスル國民運動力「モスクワ」ニ起リツツアル旨宣傳スヘシ

二、當地密偵ハ該運動ノ代表者トシテ右翼露人ノ獲得ニ努ム

ヘシ

三、住民ノ不滿暴動ニ關スル逆宣傳情報ヲ「モスクワ」ヨリ送付スルヲ以テ適時之ヲ利用スヘシ

以上ノ訓令ヨリ見ルニ蘇聯ハ恰モ「モスクワ」ニ政府顛覆運動力勃發セルカ如ク裝ヒ以テ白系露人ヲ民族的ニ日本ヨリ離間セシメントスル反間苦肉ニ出テアルモノト思料セラル云々

本信寫送付先 外務大臣 哈爾賓、奉天、滿洲里

243 昭和9年12月21日 在仏国佐藤大使より

広田外務大臣宛(電報)

日ソ関係の諸問題等に關し仏国新外相と意見

交換について

パリ 12月21日前發

本省 12月21日前着

第五八四號(極祕)

本使歸任當時「ラバール」外相ハ壽府出張中ナリシ處數日前歸來セルニ付十九日往訪ス

一、本使ヨリ先ツ日蘇關係ニ付歸朝中見聞シタル所ヲ有リノ儘ニ御話スヘシトテ日本國民ハ何レノ國トモ戰爭ヲ欲セス蘇聯邦ニ對シテモ同様ニテ何等戰爭ノ準備ヲ爲シ居ラス成程數年來我軍事豫算ハ膨脹シ居ルモ歐洲戰爭ニ直接參加セ

サリシ帝國陸軍トシテハ兵器ノ近代化ニ相當努力セサルヲ得ス陸軍經費ノ増大ハ其ノ爲ニシテ戰爭ノ準備ヲ意味スルモノニ非ス蘇滿國境ニ於テモ日本軍トシテハ何等攻擊的準備ヲ整ヘ居ラスト語リ北鐵讓渡問題モ價格ノ點ニ於テ妥協成リ殘ルハ支拂方法其ノ他細目ノ點ノミトナリタルニ付其田大使ト同外相トノ會談ノ件ニ付テハ(往電第五二五號)本使歸任後同大使ヨリ聞知セルモ今日迄東京ヨリ別段指令ニ接セサルカ故ニ本使トシテハ意見ヲ述フル地位ニ在ラス同大使ヨリ直接御聽取アリタキ旨附言セリ(吉田大使ハ二十六日再度「ラ」ト會見ノ筈ナリ)

右ニ對シ同外相ハ日本側ニ蘇聯攻略ノ意圖ナシトセハ蘇側ニハ全然侵略的意味ヲ有セサルカ故ニ極東ノ平和ハ攬亂セラルコトナカルヘシ最近「リトヴィノフ」ニ面會ノ節ニモ極東ニ於テ彼ニ進ンテ直接行動ニ出ツル意ナキコト明カニ觀取セラレタリト言ヘリ猶吉田大使ノ蘇滿國境防備撤廢日蘇間經濟的接近更ニ進ンテ不可侵條約締結ヲ考ヘントスル考案ニ關シテハ自分(「ラ」)ヨリ「リ」ニ之ヲ傳ヘ「リ」ニ於テ書留メタルモ自分ノ差當リノ役目ハ之ニテ終了セル

モノト考へ夫レ以上立入ルコトヲ避ケタリト述フ

⁽²⁾佐藤ハ曰蘇間ノ關係ハ上述ノ如クナルモ本邦内共產黨ノ首領株ハ皆莫斯科ト密接ノ連絡ヲ保チ或ハ態々同地ニ赴キ指令ヲ仰キタル事實最近連累者數名檢舉ノ結果明カトナリ我國民ノ蘇國ニ對スル疑惑ヲ深カラシメ甚タシク兩國間親善關係ノ恢復ヲ阻害スト述ヘタル處「ラ」ハ其ノ點ハ佛國ニ對シテモ同様ナルモ佛ハ政治的見地ヨリ蘇ヲ惹キ附クル要アルヲ痛感シ居レリ但シ佛蘇接近ハ歐洲ノ均衡維持ニ資セントスルニ止マルコト誤解ナキヲ希望スト云ヘルニ付其ノ點ハ「バルツー」ヨリ疾ク聞及ヒ居ル所ナルモ本邦トシテ無關心ナルヲ得サルハ蘇カ西方國境ニ於テ平靜ヲ贏チ得タル反面極東ニ一層大ナル力ヲ加ヘ得ルニ至リタル點ニアリト述ヘ置キタリ(本使トシテハ東京ニ於テ日蘇間各般ノ交渉繼續中ニモアリ別段ノ御指令ナキ限り之以上深入リセサル考ナリ)⁽³⁾

三、北支及上海地方ノ狀況ニ關シ本使ヨリ日支關係可ナリ鎮靜改善ニ趨キツツアリテ殊ニ上海方面ニ於テモ激烈ナル日支衝突後僅ニ二年ニシテ事態ノ改善頗ル顯著ナルモノアリ本使モ一驚ヲ喫シタル程ニシテ之畢境⁽⁴⁾日本ノ聯盟脫退ヲ機

トシ聯盟モ日支關係ヨリ手ヲ引キタル姿トナリタルカ爲ニ外ナラス今後モ聯盟若クハ歐米諸國ニ於テ日支間ニ介在シ調停者タラントスル如キコトナクハ兩國間ノ關係ハ自然的ニ逐次改善セラルヘシト述フ「ラ」ハ之ヲ聽取シタル後種々ノ風説ニ拘ラス日本ハ支那ノ領土ヲ侵略スルカ如キコト無シト思考スルモ如何トテ卒直ナル質問ヲ發シタルニ付言下ニ之ヲ打消シ置キタリ

三、「ラ」ハ今回壽府理事會ニ出席中佛國代表部ニ於テ日本ノ空席ヲ借用セルカ最近ノ機會ニ於テ日本ノ復歸ヲ期待スルコト不可能ナリヤトノ質問アリ本使ハ元來本使自身聯盟トノ協力維持論者ナリシモ一旦脱退ノ如キ重大決意ヲ爲シタル以上輕々ニ復歸スルカ如キハ思ヒモ寄ラス本使トシテサヘ本國政府ニ復歸ヲ勸奨スルハ到底爲シ得サル所ナリト答フ

四、海軍豫備交渉ノ經過ニ付「ラ」ヨリ質問アリタルニ付十九日午後ノ三國會商ニ於テ一旦解散スヘキモ多分來年二、三月頃再開ノコトナルヘキヤニ聞及ヘリ但シ三國間ニ或ル妥協點ヲ見出シ得ヘキヤ本使ニハ全然見當附キ兼ヌル旨ヲ答ヘ更ニ來年海軍本會議開催ニ決スル場合佛國政府モ勿

題ハ全然研究シ居ラス其ノ内關係當局ト共ニ考究シタク考

ヘ居レリト答ヘタリ